令和７年度

全校研究の
概要
と
授業実践報告

（２年研究の２年次）

目次

＜全校研究の概要＞　　・・・・・・・・　３ページ
１　Ｒ４・５年度の全校研究・・・・・・・・　４ページ
２　Ｒ６年度からの全校研究・・・・・・・・　５ページ
３　Ｒ７年度の全校研究・・・・・・・・・・　11ページ
４　参考資料(Ｒ６年度資料:R7年度継続)・・　15ページ

＜全校研究実践報告＞　　・・・・・・・・　22ページ
１　実践の報告・・・・・・・・・・・・・・　25ページ
２　全校研究のまとめ、次年度へ向けて・・164ページ

令和７年度

全校研究の概要

（２年研究の２年次）

１　Ｒ４・５年度の全校研究

研究主題

一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する児童生徒の育成　～「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業実践をとおして～

１年次　対象授業：**教科**
学習指導要領の読み込み、目標設定や評価規準の設定、
授業実践

２年次　対象授業：**各教科等を合わせた指導**
学習指導要領の読み込み、目標設定や評価規準の設定、
授業実践、
授業改善の経過を記録

⇒　本校の教育活動の中心である各教科等を合わせた指導の積み重ねをしていきたい

２　R6年度からの全校研究（２年次研の１年目）

（１）研究の目的

ア　学校教育目標、経営方針に基づいたテーマ設定のもと、
授業づくりや授業改善をとおし、**児童生徒の育成を目指す。**
（学校教育目標や学部教育目標の達成を目指す）

イ　児童生徒の目指す資質・能力を育むための**授業づくり**や
授業改善をとおして、**教職員の資質向上**を目指す。
（主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善）

（２）令和６・７年度　研究主題

児童生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指して

身に付けたい力を明らかにした**各教科等を合わせた指導の充実**

- **学習指導要領のさらなる理解**

  ⇒身に付けたい力を育むために学習指導要領の理解を深め、授業づくりに生かす

- **目指す姿の具体化と共有**

  ⇒児童生徒の具体的な目指す姿を学部・分教室ごとに共有

- **児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握→「身に付けたい力」へ**

  ⇒実態の把握(障がいの状態や特性、心身の発達段階)

- **授業づくりと授業改善**（**各教科等を合わせた指導**において）

  ⇒実態把握と学習指導要領に基づいた単元目標(各教科の目標）、個人の目標、指導内容の検討、授業実践、授業研究会の実施、成果や課題を次の授業や単元へ生かす（児童生徒が学んだり身に付けたりしたことが、他の学習や生活場面につながるような授業実践を意識する）

遠野分教室中学部、寄宿舎の研究

児童生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指して

テーマを共有

遠野分教室中学部

…併設校支援学級との交流の在り方、生徒の経験拡大を図る

寄宿舎

…テーマに沿い、研究内容を検討

（1） Ｒ６全校研　主な成果

・目指す姿の共有　⇒　授業づくりの方向性

・グループ内授業研で意見交換、情報共有　⇒　授業改善

・学習の内容　⇒　毎年同じ内容に取り組むことで、
授業改善の積み重ね
地域とつながる活動
社会参加へつながる学習
「誰かの役に立つ」経験

・動画視聴による授業研究会　⇒　客観的な実態把握から
「身に付けたい力」が明らかに
他の授業を知る機会の増加

（2） R6全校研　主な課題

・学習指導要領のさらなる理解

・授業の深化・充実に向けた児童生徒の**実態把握**

・学習指導略案の様式、授業研究会の持ち方の工夫により「**目指す具体的な姿**」をより意識した授業づくりへ

・**グループ編成の工夫**で、さらに**指導者の学び合い**を深める

・**研究協議結果を次の授業に生かす**こと

・**他教科や生活場面へのつながりの意識**

・学習活動に対しての地域の方の反応を知る機会をつくっていく

・学習の積み重ねによる発展的な目標設定

・**育てたい力（身に付けたい資質・能力)を生徒と共有**

・動画視聴で気付いた児童生徒の何気ないつぶやきや表情を次時に反映

・扱った授業や学習形態の工夫　⇒　**共有・学び合い**

学習内容の発展性を明らかに

（３）　次年度（R7年度）へ向けて

全校研究において

２年次めも**各教科等を合わせた指導**を取り上げ、
さらなる**<u>授業の深化・改善</u>**を図っていく。

扱う学習	…	継続	⇒	深化・改善
		変更	⇒	広がり・改善

・具体的な**目指す姿の共有**
・対象とする「各教科等を合わせた指導」の決定
・**単元、授業づくり、研究授業**の実施→**お互いの授業を見る機会**を設ける
・**授業研究会**の実施
<u>○成果や課題を次の授業や単元に生かす</u>（**授業改善**）　→　**目標設定**、**指導内容の工夫**、**発展性**
<u>○見つけたい資質・能力が他の授業や生活場面で活かされることを意識し、評価していく</u>
・**学部での情報共有**
・**カリキュラムマネジメント**へ

＊学部の実態に合わせ、成果・課題を生かしていく

３　Ｒ７年度の全校研究（２年研究の２年次）

（１）研究の目的

ア　学校教育目標、経営方針に基づいたテーマ設定のもと、授業づくりや授業改善をとおし、**児童生徒の育成を目指す。**
（学校教育目標や学部教育目標の達成を目指す）

イ　児童生徒の目指す資質・能力を育むための**授業づくり**や**授業改善**をとおして、**教職員の資質向上**を目指す。
（主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善）

（２）研究主題

児童生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指して

身に付けたい力を明らかにした**各教科等を合わせた指導の充実**

継続

＊２年次めは、１年次研の成果と課題を生かし、授業の深化、授業のさらなる充実を図る。

３　Ｒ７年度の全校研究（２年研究の２年次）

（３）研究の内容と流れ

ア　学習会
イ　目指す姿の共有
ウ　学習グループ等を検討
　⇒年間指導計画の中から、対象とする「各教科を合わせた指導」の単元を決定する
エ　単元、授業づくり、研究授業の実施
　⇒ ★ **身に付けたい資質・能力が他の学習や生活場面で生かされることを意識する**
オ　授業研究会の実施とまとめ
　⇒ ★ **授業改善につながる具体的内容の検討**
カ　学部での情報共有
キ　年間指導計画に生かす（カリキュラムマネジメント）

（４）推進計画

月	日	研究会・研修会	主な内容
5	20(火)	職員会議にて概要説明	研究の目的、研究内容の確認
6	10(火)	**研究日①**	**学部研究会①学習会（基礎的知識確認）、目指す姿の共有**
7	8 (火)	**研究日②**	**学部研究会②学習グループ、単元の検討、単元授業づくり**
8	8 (金)	高教研講演会	講師:　内容:各教科等を合わせた指導について
	26(火)	**研究日③**	**学部研究会③単元授業づくり、研究授業、授業研究会**
１０	14(火)	**研究日④**	**学部研究会④単元授業づくり、研究授業、授業研究会**
１１	11(火)	**研究日⑤**	**学部研究会⑤単元授業づくり、研究授業、授業研究会**
１２	5 (金)	全校授業研究会 兼 ステップアップII 研修講座『公開授業研究会』	授業提供：小学部 グループ研究会
	24(水)	研修報告会、**研究日⑥**	研修内容の共有、**学部研究会⑥学部研究のまとめに向けて**
1	20(火)	**研究日⑦**	**学部研究会⑦学部研究のまとめ**
3	3 (火)	授業実践報告会	全校研究と学部、分教室、舎研究の実践共有

（５）構想図

＜学校教育目標＞
一人ひとりの可能性を伸ばすとともに、
自立と社会参加に向けて主体的に生きる人間を育成する

学部教育目標

年間指導計画

個別の指導計画

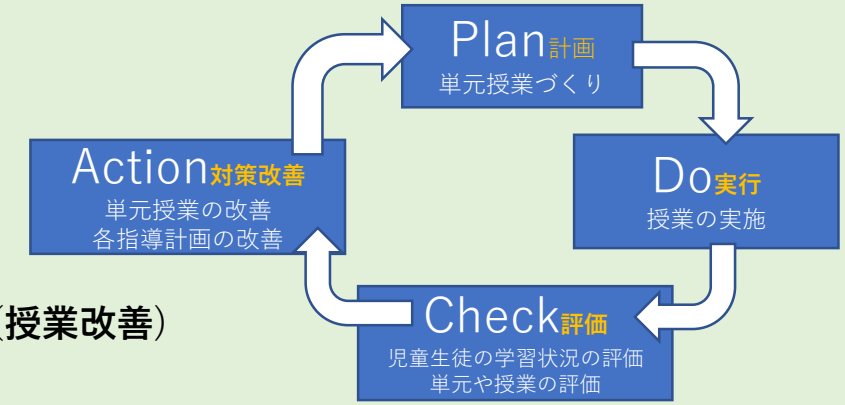
≪研究主題≫

児童生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指して

一人ひとりに身に付けさせたい力を明らかにした各教科等を合わせた指導の充実

取り組む内容

・学習指導要領の理解を深める→授業づくりの中で
・具体的な**目指す姿の共有**
・対象とする「各教科等を合わせた指導」の決定
・**単元、授業づくり、研究授業**の実施
　→**身に付けたい資質・能力が他の学習や生活場面において生かされていくことを意識**
　→**お互いの授業を見る機会**を設ける
・**授業研究会**の実施
　→**成果や課題を次の授業や単元に生かす:具体的な解決案**（**授業改善**）
・**情報共有**
・**カリキュラムマネジメント**へ



参考資料①（R6年度資料：R7年度継続）

研究仮説

★学習指導要領のさらなる理解を深め、

★(学部教育目標に基づく)児童生徒の目指す姿のイメージを共有、

★実態、学習指導要領に基づいた各教科等を合わせた指導の単元目標(各教科の目標)、個人の目標、指導内容の検討をし、

★授業実践と授業改善をすることで、

★児童生徒一人ひとりの身に付けたい力が育まれ、自立と社会参加を目指し、

★学校教育目標及び学部教育目標の達成につなげることができるのではないか。

参考資料②（R6年度資料：R7年度継続）

研究内容と方法－１

ア　研究の期間と主な内容

○２年次研究

・１年次…各教科等を合わせた指導での授業づくり、授業改善に取り組む

・２年次…１年次研の成果と課題を生かし、授業の深化、授業のさらなる充実を図る

参考資料③（R6年度資料：R7年度継続）

研究内容と方法－２

イ　全校研究の内容、方法について

全校研究

・全校研究概要の説明（５月職員会議にて）
・高教研講演会（８月）
・全校研究授業、授業研究会(11・12月…高等部授業提供)
・第２回全校研究会（３月…学部、分教室、舎研究の共有）

参考資料④（R6年度資料：R7年度継続）

研究内容と方法－3

ウ　学部研究の内容、方法について-1

a　学習指導要領、各教科等を合わせた指導、授業づくり
授業改善に関する基礎的知識の確認(学部研学習会)

b　学部教育目標等をもとに、目指す姿を具体的に考える
目指す姿を職員間で共有する

C　学習グループ等を検討
年間指導計画の中から、対象とする「**各教科を合わせた指導**」**の単元を決定**する

参考資料⑤（R6年度資料：R7年度継続）

研究内容と方法－4

ウ　学部研究の内容、方法について－2

d　**<u>単元、授業づくり、研究授業の実施</u>**

・児童生徒の実態の把握と共有

・各教科を合わせた指導の中で、どの教科のどの内容を扱うか
　⇒学習指導要領の理解を深める

・単元目標と個人目標の設定

・指導、支援方法の検討（他の授業や生活場面につながることも
　意識する）

・研究授業の実施、授業の**動画を撮影、保存**
　＊学部、他学部へも研究授業実施を周知→授業を見合う機会を設ける

参考資料⑥（R6年度資料：R7年度継続）

研究内容と方法－5

ウ　学部研究の内容、方法について－3

e　**授業研究会の実施**とまとめ、**次の授業や単元へ**生かす

・撮影した動画を視聴しながら、評価をする

→記憶に頼らない、客観的な評価へ

・授業研究会で出された成果や課題を次の授業や単元で生かす

→PDCA

P…単元、授業づくり

D…学習指導要領に基づいた・個に応じた授業の実践

C…児童生徒の学習状況評価、単元や授業の評価

A…授業の改善、各指導計画の改善

・授業や単元で学習したことが、他の授業や生活場面で生かされている場合も評価として記録

参考資料⑦（R6年度資料：R7年度継続）

研究内容と方法－6

ウ　学部研究内容、方法について－4

f　**学部での情報共有**

・学部ごとに、互いの取組状況を共有する機会を設け、自分たちの授業改善に役立てる

・小学部は全校研究授業及び授業研究会での授業提供学部であるため、対象学習グループの決定や、指導案作成にあたっては、学部全体で検討する時間を設ける

・年末をめどに学部研究のまとめをし、学部全体で共有、次年度のカリキュラムマネジメントに生かす

令和７年度

全校研究
実践報告

（２年研究の２年次）

１　実践の報告

２　全校研究のまとめ、次年度へ向けて

令和６・７年度　研究主題

児童生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指して

身に付けたい力を明らかにした**各教科等を合わせた指導の充実**

- **学習指導要領のさらなる理解**

  ⇒身に付けたい力を育むために学習指導要領の理解を深め、授業づくりに生かす

- **目指す姿の具体化と共有**

  ⇒児童生徒の具体的な目指す姿を学部・分教室ごとに共有

- **児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握→「身に付けたい力」へ**

  ⇒実態の把握(障がいの状態や特性、心身の発達段階)

- **授業づくりと授業改善**（**各教科等を合わせた指導**において）

  ⇒実態把握と学習指導要領に基づいた単元目標(各教科の目標）、個人の目標、指導内容の検討、授業実践、授業研究会の実施、成果や課題を次の授業や単元へ生かす（児童生徒が学んだり身に付けたりしたことが、他の学習や生活場面につながるような授業実践を意識する）

1　実践の報告

（1）学部、分教室研究共通内容
ア　学習会　…　基礎的内容の確認（学部、分教室研究会内）
イ　目指す姿の共有

（2）高教研講演会

（3）全校研究授業及び授業研究会

（4）各学部、分教室、寄宿舎の実践報告

（１）学部、分教室研究共通内容学習会

ア　学習会

＜主な内容＞

令和７年度学校教育指導指針(特支)岩手県教委**の内容を中心に**

・授業改善の視点

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

・指導と評価の一体化

・各教科における評価の基本構造　など

学習指導要領から

・教科横断的な視点に立った資質・能力

（１）学部、分教室研究共通内容学習会

イ　目指す姿の共有

授業づくりと実践、改善を始める前に

- 学校目標
- 学部および分教室目標
- キャリア教育全体計画(学部方針、各学部段階におけるキャリア発達能力の目標)

上記を踏まえた上で、学部、分教室ごとに各々の児童生徒の目指す姿の共有を行った。

＊検討した具体的内容は学部、分教室実践結果で報告

（２）高教研講演会(8月８日実施)

講師　**菊地一文　教授**（弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻）

演題

地域との連携・協働によるキャリア発達の視点を踏まえた授業づくり
～各教科等を合わせた指導を通して～

（３） 全校授業研究会及び授業研究会- １

ア　研究授業

日時　**令和７年10月29日(水)**

場所　**高等部農作業室**

内容　**高等部　学習　アグリ課**

秋の農業「こたままつりで野菜を販売しよう」

＜扱った各教科等と大まかな内容＞

- **職業科**　…　職業生活、働くことの意義(２グループのみ)
- **社会科**　…　工業と生活
- **数学科**　…　数と計算(１グループ)
- **算数**　…　B図形(２グループ)
- **国語科**　…　書くこと(２グループのみ)
- **道徳科**　…　思いやり、感謝(１グループ:中学部の内容)、礼儀(２グループ:小学部の内容)

（３）　全校授業研究会及び授業研究会-２

兼　特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅱ対象研修「公開授業研究会」

イ　授業研究会－１

日時　**令和７年12月５日(金)14:15～16:00**

内容　**全体会、グループ協議(学部縦割)と発表、助言・講評**

（３）　全校授業研究会及び授業研究会- 3

兼　特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅱ対象研修「公開授業研究会」

イ　授業研究会－２

＜全体会＞

〇授業者から（一部抜粋）

・授業のモットーは「農業は楽しい」と感じてもらうこと。厳しい環境でもやり遂げた爽快感、育てて味わう面白さ、植物の生長や土の役割から知る感動、協力して行う楽しさ、このような体験から「わかる」「できる」を増やしたい。

・冬は屋内作業の中で、連絡・報告・相談することや自主的に準備を行う力を身に付けられるように内容を設定している。

・「購入してくださるお客様を意識すること」は野菜を丁寧に扱うことにつながると考えた。

・「お客様が喜ぶ野菜」を考えること、丁寧に作業すること、計量や袋詰めについての目標は概ね達成できたと感じる。

（３）　全校授業研究会及び授業研究会-４

兼　特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅱ対象研修「公開授業研究会」

イ　授業研究会－３

＜グループ協議＞

〇良かったこと

・丁寧な進行で安心感があった。自発的な生徒の話を生かしていた。

・じゃがいものサイズ分別用の穴の開いた段ボールの工夫。袋詰めの流れと配置。

・リーダーが進行する場面があったところ。

・生徒同士での声の掛け合い、助け合いがあったところ。

・作業内容と手順を理解できていたことで、主体的に活動できたいたところ。　等

〇課題⇒改善案

・教師主導の場面が多い　⇒　リーダーの指示だしや準備作業など生徒が行う場面を増やす

・導入が長い印象　⇒　個別で行う場面、日誌で行う場面、全体の場面を整理しては

○課題⇒改善案（続き）

・より目標意識や達成感が得られるように　⇒　最終的な目標個数を明示

・袋詰めに関する改善案　⇒　◇全体目標と個別目標のリンク

◇「やさしく」できたかについて、『行動』で評価するとよい

◇気を付けることについて視覚支援を増やす

◇その場その場でフォードバックする

○授業者が聞きたいこと(お客様が喜ぶ・やさしく扱う・社訓を授業につなげること)

・自身が喜ぶ、幸せの経験。

・「やさしく」は抽象的であり、具体的な表現にしていくことが必要。

例：きれいに、キズなし

・事前に「笑顔の花」「幸せ」について生徒たちと確認しておく。

・具体的、実際にやって見せる。例:思い切り乱暴に扱う様子を見せる。

また、ソーシャルスキルトレーニングのように実際に演じて体験する。

・野菜を売っている店に行く。また、プロから学ぶ。

・お客様の声（動画など）を生徒へ伝える。

（３） 全校授業研究会及び授業研究会- 5

兼　特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅱ対象研修「公開授業研究会」

イ　授業研究会－４

＜助言・講評(一部抜粋)＞

・教材感、目標設定が明確。場の設定、動線も工夫が見られた。
・グループで話し合う場、他のグループと共有する場面が設けられており、対話的で深い学びにつながっていた。
・「喜ぶ野菜」は抽象的であったが、丁寧に取り組んでいた。
・農作業は同じ環境で繰り返し取り組むことが難しい活動であるが、じゃがいものサイズ分けで使用していた穴を開けた段ボールなど様々な場面で工夫が見られた。
・作業量も確保できていたのではないか。
・導入、振り返りをすることで取り組んだこと、達成できたことについてじっくりと向き合うことができていた。
・この経験をとおして、農業は魅力的だと生徒に感じてほしい。

（４）各学部、分教室、寄宿舎の実践報告

・小学部　…　日常生活の指導、生活単元学習
・中学部　…　作業学習
・高等部　…　作業学習
・遠野分教室小学部　…　生活単元学習
・遠野分教室中学部　…　生活単元学習/作業学習
（合せた指導におけるタブレット端末の活用）
・北上みなみ分教室小学部　…　生活単元学習
・北上みなみ分教室中学部　…　作業学習
・寄宿舎（テーマを共有した上で、独自の実践）

本校小学部　実践報告

1 （1）目指す児童の姿（低学団）

※参考資料：キャリア教育全体計画、学校経営概要

心身の健康
・健康で自立した生活を送る(衛生面・体力面)
・午前の学習活動を十分に行うことができる体力(食事・睡眠・生活リズム)がある児童

気持ちの安定
・安心してその場にいられる。
・安定した気持ちで活動に参加する。

見通し
・活動に見通しをもち取り組む。
・まわりを見て活動や役割などが分かる。
・やることが分かる。

意思表示
・自分なりの方法で意思表示する(気持ちなども:コミュニケーション)
・怒る以外の方法を身に付ける。
・自分から発信できる。
・自分の気持ちを伝えようとする。
・他者とのやりとりを積極的に行おうとする。
・「ありがとう」「ごめんなさい」ができる。

興味・関心 ⇒ 選択
・好きなことに打ち込める。
・好きなこと、したいことをたくさん見付ける。
・遊びや運動を楽しく行う。
・楽しみな学習を励みに積極的に活動できる(少しの困りごとを気にせず乗り越えられる児童)。
・苦手なことでもめげずに取り組める。
・自分の好きなこと、やりたいことを選ぶ。

興味・関心
・まわりを見て興味や関心をもてるものを増やす。
・身近な人や社会に興味をもつ。

人との関わり
・友達や先生と関わり、様々な刺激に触れる。
・友達や教師との関りを楽しみ、いきいきと活動する。
・支援を受け入れて活動する。

主体性
・自分でやってみようとする。
・自分のこと、身の回りのことに関心をもち、自分から取り組もうとする。
・一人でやってみようとチャレンジする。

集団参加
・みんなと同じ場所や活動内容の共有ができる。
・集団活動で待つことができる。

役割、自己肯定感
・自己の役割を知り、役に立つ喜びを知る。

社会性
・約束やきまりが分かり、それらを守って生活できる。
・周りの人や物を大切にできる。

１（２）目指す児童の姿（高学団）

※参考資料：キャリア教育全体計画、学校経営概要

身辺自立
・自分でできることを増やす。
・自分のことは自分で行おうとする児童

人との関わり
・人との関わりを広げる。
・友達と仲良く　⇒　協力へ
・優しい気持ち、相手を思いやる気持ちをもてるようになってほしい。

興味・関心、得意なこと
・興味・関心を広げる。
・自分の得意なことを伸ばそうとする。

自己肯定感　自己有用感
・毎日、その子なりの満足感や達成感をもって生活することができる。
・学校に来るのが楽しい
・やりたい、楽しい…気持ちをもつ ⇒**頑張る力**
・挨拶する。
・役割をこなす
・好きなことを見つけ楽しむ
} **生活力を高める ⇒働く力へ**

コミュニケーション
・話を聞く態度
・話す人を見る

自分の気持ちを伝える
・自分の思いを相手（他者）に伝える。
・言葉や絵カード、サイン、選択などの手段で自分の気持ちを表現する。

主体性
・自分から進んで取り組む
・自分から考えて動く（指示を待たない）
・**自己選択**（自分で考えて選ぶ）

気持ちのコントロール
・気持ちの切り替えができる。
・場に応じた気持ちの切り替え
・教師や友達の関りを受け入れることができる精神の安定
・落ち着いて学習に取り組むことができる。

2　研究方法【授業改善をキーワードにしたPDCAサイクル】

単元・題材計画
授業づくり
（生単グループ、日生グループ）

縦割りのグループ編成（系統性）

研究授業
（略案、提案授業録画）

授業研究会

授業改善・授業の深化
具体的な改善策をグループ内で協議

改善策を基に
実 践

今後の授業や単元・題材を
柔軟に修正及び変更

３　研究の実際

（１）生活単元学習グループの授業実践①

小学部４年１組・５年１組合同

「トマトでアイスをつくろう」

扱った各教科等：生活科、国語科、算数科、図画工作科

ア　授業研究会の報告【ワークショップの記録より】

目標設定、学習内容(量も含む)、活動の流れ、手立て（場の設定、教材教具、教師の対応の仕方など）

良かった点

【興味関心に応じた単元設定】
- 児童の実態に合った単元設定が良い
- 教師や友達の活動の様子に注目して興味をもって見ていた
- 収穫したトマトをアイスにして食べるアイデアが良い

【一貫性・系統性のある単元設定】
- 畑→調理活動
- 夏野菜（トマト）をうまく活用した調理活動（レシピ）

【教材研究】
- 指導者が事前に実際に取り組んだ上でプロセスを練る〈授業づくりの視点〉

【実態に合った教材・教具】
- ブンブンチョッパーやハンドミキサーなどの調理器具が児童の実態に合っていた

【経験の拡大】
- 初めて経験する活動で期待感が高まった
- 各工程を一人一人が経験できたことがよかった

【見通し】
- 学習の見通しとして一つ一つ活動のゴールの提示が有効
  →10 回数えたら終わり
- 見通し→振り返り→見通し…を繰り返していく

【役割（分業制）】
- 片付けの分業制が良い
  →自分の役割が分かる

【達成感】
- 自分の容器にアイスを作る自分で運び冷蔵庫に入れる
  →責任感と期待感の高まり

課題と改善案

【単元設定（子ども達の選択する機会を設定）】
- トマトアイスは教師の提案
  →作るものの選択肢があっても良い

【活動量の確保】
- 調理器具の使い方を覚えたら、ブンブンチョッパー、ハンドミキサーの台数を増やして同時進行
  →一人一人の活動量を増やす
  →待ち時間を減らす

【工程表の提示の仕方】
- 手順表は、全体通してのものとめくり式のものと両方あれば良い
  →視覚的な活動の見通し
  →一人でできる（主体的な学び）

授業者が聞きたいことは良かった点及び課題と改善案に反映

良かった点
課題点

〈授業者が聞きたいこと〉
- **児童の実態と役割分担のあり方について**
- **活動の終わりの見通し持たせ方について**

ワークショップ形式

今後の授業や単元に向けて

お誕生会にアイス作りの活動を取り入れ、今までの学習内容を発展させる

○全員が全工程を経験済み
⇒次回はどの工程をやりたいか児童が選択する機会を設定

→ メニューを変える〈ピザ作り〉

→ 宿泊学習（10 月）でのピザ体験に生かす

○調理の経験
⇒児童の実態によっては家庭でも作れるようになることを目指す

イ　授業研究会の報告【ワークショップの記録より】

目標設定、学習内容(量も含む)、活動の流れ、手立て（場の設定、教材教具、教師の対応の仕方など）

良かった点

【興味関心に応じた単元設定】
- 児童の実態に合った単元設定が良い
- 教師や友達の活動の様子に注目して興味をもって見ていた
- 収穫したトマトをアイスにして食べるアイデアが良い

【一貫性・系統性のある単元設定】
- 畑→調理活動
- 夏野菜（トマト）をうまく活用した調理活動（レシピ）

【教材研究】
- 指導者が事前に実際に取り組んだ上でプロセスを練る〈授業づくりの視点〉

【実態に合った教材・教具】
- プンプンチョッパーやハンドミキサーなどの調理器具が児童の実態に合っていた

【経験の拡大】
- 初めて経験する活動で期待感が高まった
- 各工程を一人一人が経験できたことがよかった

【見通し】
- 学習の見通しとして一つ一つ活動のゴールの提示が有効
  →10 回数えたら終わり
- 見通し→振り返り→見通し…を繰り返していく

【役割（分業制）】
- 片付けの分業制が良い
  →自分の役割が分かる

【達成感】
- 自分の容器にアイスを作る自分で運び冷蔵庫に入れる
  →責任感と期待感の高まり

課題と改善案

【単元設定（子ども達の選択する機会を設定）】
- トマトアイスは教師の提案
  →作るものの選択肢があっても良い

【活動量の確保】
- 調理器具の使い方を覚えたら、プンプンチョッパー、ハンドミキサーの台数を増やして同時進行
  →一人一人の活動量を増やす
  →待ち時間を減らす

【工程表の提示の仕方】
- 手順表は、全体通してのものとめくり式のものと両方あれば良い
  →視覚的な活動の見通し
  →一人でできる（主体的な学び）

授業者が聞きたいことは良かった点及び課題と改善案に反映

〈授業者が聞きたいこと〉
- 児童の実態と役割分担のあり方について
- 活動の終わりの見通しの持たせ方について

今後の授業や単元に向けて

お誕生会にアイス作りの活動を取り入れ、今までの学習内容を発展させる

○全員が全工程を経験済み
⇒次回はどの工程をやりたいか児童が選択する機会を設定

→ メニューを変える〈ピザ作り〉

→ 宿泊学習（10 月）でのピザ体験に生かす

○調理の経験
⇒児童の実態によっては家庭でも作れるようになることを目指す（発展性）

具体的な改善策の提案

ウ　改善策を取り入れた実践報告【授業改善記録シートより】

取組期間	何の授業／場面	実施した内容	児童の変容の様子など
9月11日（木）	トマトアイスを作ろう	・見通しをもって調理活動ができるように、トマトアイスの全工程の作成手順を表示した。	・最初は、教師の指示後に動く様子があり、活動が受動的であった。 ・Aさんが「次は砂糖を入れるね」と言ったり、Bさんが「（皮むきが終わったタイミングで）次のミキサーをやりたい」と言ったりする様子があり、手順を理解しながら調理活動を進めることができた。
9月11日（木）	トマトアイスを作ろう	・順番を待っている児童が調理している友達の様子を見ることができるように、調理を行う向きを変えた。（友達から見えるように調理）	・他の児童の活動に注目することが難しかったが、お互いに見合える向きに変えたことで、期待感や見通しをもって順番を待つことができた。 ・今どこの工程を行っているかの理解につながった。
9月11日（木）	トマトアイスを作ろう	・全員が全行程を経験したことを活かし、工程を選択する、役割を分担するといった活動を追加した。	・全工程を一度児童が経験したことで、自分がどの工程をしたいかが明確になり、意欲にもつながった。 ・Cさんは「やりたい」と挙手しながら、順番を待つ様子が見られた。
9月16日（火）	振り返りをしよう	・家庭でも作ることができるように手順表を作成した。	・Dさんは10月にレシピを持ち帰り、家でもトマトアイスを作った。（ピザトーストも作った）
10月2日（木）	ピザ作りをしよう	・作成手順が分かるように、全工程を一覧にして表示した。	・手順を一覧にしたことで、見通しをもって活動することができた。衣愛さんは手順を目で追いながら、確認する様子があった。
10月10日（金）	ピザを作ろう（宿泊学習にて）	・あいののが作成した手順表を見て、調理をした。	・これまでの経験をふまえ、ピザ作りの手順が分かり、自分から調理に取り組んでいた。どの児童も意欲的に調理をし、自分で作って食べることに喜びや達成感を感じていた。

単元の変更（発展）
⇒単元の終結に「お誕生会」を設定

実生活への応用
（校外の活動家庭）

（２）生活単元学習グループの授業実践②

小学部３学年合同

「わくわくタイム
　　ボッチャゲームをしよう」

扱った各教科等：生活科、国語科、体育科、算数科

ア　授業研究会の報告【ワークショップの記録より】

「本時の目標を達成できるような学習活動が十分展開できたか」（視点：「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」であったか）

目標設定、学習内容（量も含む）、活動の流れ、手立て（場の設定、教材教具、教師の対応の仕方など）

良かった点

○勝敗
・勝ち負けがあって良かったと思う。

○単元設定の流れ
・単元設定のねらいが明確で良い。
・課題単元→トピックス単元へ。ねらい、取り扱いを捉えて設定。
・単元の時数、内容の設定が明確で良い。（太田小交流につなげるのに有効的）

○意欲付け
（数の理解の段階に合わせて）
・0点がなかったのが良かった。マットにのらなくても1点が嬉しかったと思う。
・マットに球がのらなかったときにも1点入る所が良い。意欲につながる。
・「わくわくタイム」⇒子ども達から引き出すのが良かった。主体性につながっている。
・テーマの共有：分かりやすい
→みんなでジェスチャー
・好きな色、投げる順番の選択、意欲付けができている。

○見通し（ルールの視覚化、表示の仕方）
・活動前に約束を確認→約束を守ることが習慣化する。
・マットの色で点数を分かりやすくしたことにより、子ども達が狙いやすかった。
・ルールを色や数字で視覚化したことで分かりやすい。
・ルールや約束を示した視覚教材、単元カレンダーの表示が分かりやすい。⇒みんなが注目して話を聞いていた。

○自己選択
・自己選択の機会の設定（自分の好きな色でチーム分け）：手立ての工夫
・チームを選択できることで意欲につながると思った（教師が決めがち）

○気持ちの伝え方
・本時の振り返りで感想発表（気持ちの表現）の機会を設定

○友達との関わり
・（ルールについて）自然に教え合い、学び合いが生まれた。

課題と改善案

○大小や多少の比較：数量の教材検討
・教材の活用（マグネット）
個：数と量の対応
合計数：勝敗
→勝敗では、赤、青のマグネットを並べて比べては？
・個々の得点の表示としては操作しやすいマグネットの大きさだったが、数の概念が難しい児童に対しての勝敗の理解には、大きいマグネットを活用して量で比較しても良いのでは。
・数（点数）の大小で勝ち負けを理解させるにはどうするか？

○多少の比較（量の大きさ）や数の大小の比較はもっと大きな教具で、視覚的に示しても良いのでは？
例）カラーボール等

○縦に並べた方が比較しやすいのでは？

○活動量
・活動量としてどうだったか？
・待ち時間をどうするか？

○ボッチャを投げる力加減
・フラフープなどの活用
→ボッチャボールをただ転がすのではなく、目標物に向かって投げるための手立て

今後の授業や単元

（目標の見直し、[illegible]内容の改善：教材教具・場の設定・教師の働[illegible]けし、発展性等）

○勝敗は量で比較
⇒縦に並べる。
⇒ブロックを重ねるなど

○ゲームに応じてねらいを設定し、活動量も検討していく。

○役割の設定
・得点係

授業者が聞きたいこと

・ルールのあるゲームのアイディアについて

・ボウリング
・色集めゲーム
・ナンバーリレー
例えば、「[illegible]
探して順[illegible]
（必ず点数[illegible]
・輪投げ
（ペットボトル手作り）
・魚釣り
・既習のマグネットを活用し、勝敗をマグネットで示すゲーム

良かった点
課題点

イ　授業研究会の報告【ワークショップの記録より】

良かった点

○勝敗
・勝ち負けがあって良かったと思う。

○単元設定の流れ
・単元設定のねらいが明確で良い。
・課題単元→トピックス単元へ。ねらい、取り扱いを捉えて設定。
・単元の時数、内容の設定が明確で良い。（太田小交流につなげるのに有効的）

○意欲付け
（数の理解の段階に合わせて）
・0点がなかったのが良かった。マットにのらなくても1点が嬉しかったと思う。
・マットに球がのらなかったときにも1点入る所が良い。意欲につながる。
・「わくわくタイム」⇒子ども達から引き出すのが良かった。主体性につながっている。
・テーマの共有：分かりやすい
→みんなでジェスチャー
・好きな色、投げる順番の選択、意欲付けができている。

○見通し（ルールの視覚化、表示の仕方）
・活動前に約束を確認→約束を守ることが習慣化する。
・マットの色で点数を分かりやすくしたことにより、子ども達が狙いやすかった。
・ルールを色や数字で視覚化したことで分かりやすい。
・ルールや約束を示した視覚教材、単元カレンダーの表示が分かりやすい。⇒みんなが注目して話を聞いていた。

○自己選択
・自己選択の機会の設定（自分の好きな色でチーム分け）：手立ての工夫
・チームを選択できることで意欲につながると思った（教師が決めがち）

○気持ちの伝え方
・本時の振り返りで感想発表（気持ちの表現）の機会を設定

○友達との関わり
・（ルールについて）自然に教え合い、学び合いが生まれた。

課題と改善案

○大小や多少の比較：数量の教材検討
・教材の活用（マグネット）
個：数と量の対応
合計数：勝敗
→勝敗では、赤、青のマグネットを並べて比べては？
・個々の得点の表示としては操作しやすいマグネットの大きさだったが、数の概念が難しい児童に対しての勝敗の理解には、大きいマグネットを活用して量で比較しても良いのでは。
・数（点数）の大小で勝ち負けを理解させるにはどうするか？

○多少の比較（量の大きさ）や数の大小の比較はもっと大きな教具で、視覚的に示しても良いのでは？
例）カラーボール等

○縦に並べた方が比較しやすいのでは？

○活動量
・活動量としてどうだったか？
・待ち時間をどうするか？

○ボッチャを投げる力加減
・フラフープなどの活用
→ボッチャボールをただ転がすのではなく、目標物に向かって投げるための手立て

今後の授業や単元に向けて

（目標の見直し、[illegible]内容の改善：教材教具・場の設定・教師の働[illegible]けい、発展性等）

○勝敗は量で比較
⇒縦に並べる。
⇒ブロックを重ねるなど

○ゲームに応じてねらいを設定し、活動量も検討していく。

○役割の設定
・得点係
・ボール渡し係
・進行係など

イディアについて

・ボウリング
・色集めゲーム
・ナンバーリレー
例えば、「1～3」の数字を探して順番にしゃがんでとる。
・サイコロゲーム
（必ず点数を取る）
・輪投げ
（ペットボトル手作り）
・魚釣り
・既習のマグネットを活用し、勝敗[illegible]示すゲー[illegible]

具体的な改善策の提案

ウ　改善策を取り入れた実践報告【授業改善記録シートより】

取組期間	何の授業／場面	実施した内容	児童の変容の様子など
11月13日～18日	生活単元学習「太田小学校とのなかよし交流会」に向けての事前学習、ゲームや発表の練習、当日の交流	合計得点（数量）の提示の仕方を改善した。色マグネットを並べるのを横→縦にして得点を数えた。「おおい」、「すくない」の文字も提示し勝敗を確認した。	横並びで提示した時よりも、数量の違い（どちらが多いか）が分かりやすく、量の違いが理解できる児童は、自分から勝った方のチームの色を話す様子が見られた。
11月13日～18日	生活単元学習「太田小学校とのなかよし交流会」に向けての事前学習、ゲームや発表の練習、当日の交流	児童の役割について 得点、進行係（一人ずつの点数分のマグネットを貼る、次に投げる人の名前を言うなど）	交流当日のゲームで、A・Bそれぞれのグループで１人ずつ（Aさん、Bさん）得点係を行った。事前の練習、当日と繰り返し取り組んだことで、２名の児童にとっては好きな活動だったこともあり、落ち着いてゲームに参加することができた。Aさんは、児童の写真カードを見て、次に投げる人の名前を呼んでゲームを進行することができた。
11月13日～18日	生活単元学習「太田小学校とのなかよし交流会」に向けての事前学習、ゲームや発表の練習、当日の交流	わくわくタイムから太田小交流へ、単元設定のつながり	ボッチャをわくわくタイムから繰り返し取り組んだことで、児童が見通しをもって落ち着いて活動に取り組むことができた。高得点を取りたいという気持ちが出てきた児童もおり、「くやしい」と言葉で表現する様子も見られ、気持ちの表現に広がりがみられた。
11月13日～18日	生活単元学習「太田小学校とのなかよし交流会」に向けての事前学習、ゲームや発表の練習、当日の交流	得点の設定について	太田小交流に向けてのゲームは、「５点」ゾーンを設け、ルールをバージョンアップした。（わくわくタイムでは、１～４点まで）太田小の友達と一緒に５点を狙って投げることを楽しんだ。
※改善点にあがった「活動量」については、１～３月のわくわくタイムで活動量が確保できる内容を設定する予定。			

教材の改良
役割設定
↓
児童の変容

単元間の
連続性
系統性へ

（３）日常生活の指導グループの授業実践①

小学部４・５年２組

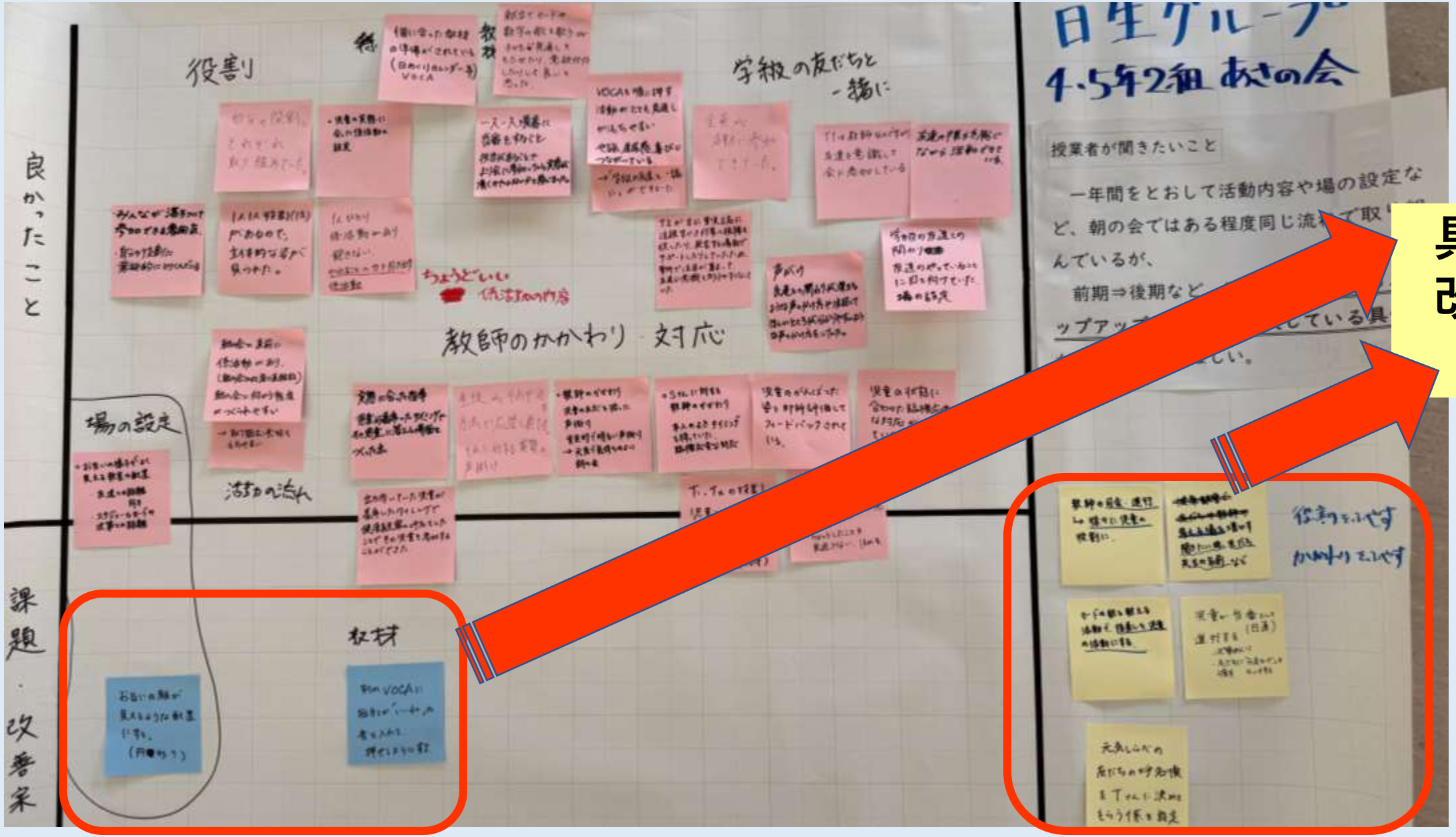
「朝の会」

扱った各教科等：生活科、国語科、算数科、体育科

ア　授業研究会の報告【ワークショップの記録より】

良かった点
課題点

イ　授業研究会の報告【ワークショップの記録より】



具体的な改善策の提案

ウ　改善策を取り入れた実践報告【授業改善記録シートより】

取組期間	何の授業／場面	実施した内容	児童の変容の様子など
9月５日（金）～	朝の会/全体	Aさんが発信する手段としてスイッチ（ステップバイステップ）に「いいね！」を録音して使用。	・最初は、やみくもにスイッチを押す姿 ・場面を限定しスイッチ提示すると、嬉しそうに押していた。次第に、自ら「いいね」と模倣して話す場面が出てきた。
同上	朝の会/今日の日付と天気の確認他	Bさんの発信する手段としてスイッチ（ステップバイステップ）を使用。	・Aさんが数字カードを貼った際、Bさんにスイッチを見せ、Aさんの様子を伝えると、Bさんがスイッチを押し「いいね」と音声で発信。するとAさんは、自分でもグッドサインを示し、児童同士のコミュニケーションにつながった。
9月10日（水）～	朝の会/全体	役割の新たな設定として、ミニ進行表を作成し使用。	・全体掲示用として進行表があったが、Aさんが「（T1がめくる様子を見て）やりたい」と訴えたので、Aさんが操作しやすいよう、ミニ進行表を作成し使用。すると、自分からめくりながら、会を進める様子が見られた。Aさんにとっても、めくる係として新たに役割を追加し実施。

自分から発信できる手段

新たな役割

↓

主体性

（４）日常生活の指導グループの授業実践②

小学部２年１組

「朝の会」

扱った各教科等：生活科、国語科、体育科

ア　授業研究会の報告【ワークショップの記録より】

良かった点

目標設定、学習内容(量も含む)、活動の流れ、手立て（場の設定、教材教具、教師の対応の仕方など）

見通し

活動の流れが理解できていて、すすんで取り組んでいる。

教師の関わり

教師が程よい関わりであり、児童の自発的な発信を引き出していた。

教師が児童たちの言葉を拾い、伝えていた。

選ぶ、話題の広がり、友達意識

好きなメニュー発表
…選ぶ、会話が発展
表現、友達との関わり

クラスメイトの関わり
友達を思いやったり、共感したりする場面が良かった。

楽しみなメニュー紹介
給食のために勉強を頑張ろうと励みになったり、友達の楽しみなメニューを知ることで他の人も楽しみな気持ちがわくと感じた。

子ども同士の関わり

友達との関わりが多くの場面で見られた→活動の流れの中で仕組まれていた。

友達とのやりとりが多かったところ

子ども同士のやりとりの場の設定が◎でした。例：カードを手渡す。（できたらハイタッチ）役割決めと確認。

子どもたち同士の関わりが多くて良かった。

発表やカードを貼ったあとに拍手やハイタッチが自然にあった。

健康観察で人数を数える
数を数える学習になっていることはもちろん、メンバーで一日を過ごす集団意識が感じられて良い。

会における自分の役割や自分の番 or 友達の番など状況を見ながら会に参加している姿が良かった。

活動内容と流れの工夫：メリハリ

学習内容、量が適切な量でメリハリがあった。

聞く、お話、歌
メリハリがある

学習内容、量が適切な量でメリハリがあった。

当番をよく見て話を聞くことができていて良かった。
一方で歌や身体を使った場面では楽しそうに取り組んでおり、メリハリがあった。

活動内容の工夫

楽器演奏で一斉にではなく、一人ずつ前に出て発表し、楽しんで積極的に取り組んでいるところがよい。

日直以外の係/役割

係りの仕事
一人一役で、活動量を確保している。

一人一人に役割があっていいと思った。毎日違う係でもやる内容がしっかり理解できていいいと。

自分の係を理解し、一人一人自主性をもって活動していた。(場の設定)

友達や先生とのやりとりを楽しみながら係の活動ができている。

当番以外にも係を設定することで、主体的な活動になっていた。

日直が係を選ぶ

係分担を当番が決める
タンブリンリレー方式
→人との関わりの広がり

当日の係を日直が選んで発表すること(主)(深)

係を日直が選ぶ→意欲
友達との関わり
選んでいた/お願いされた

課題と改善案

今後の授業や単元・題材に向けて

（目標の見直し、指導内容の改善：教材教具・場の設定・教師の働き掛け、発展性等）

・対話により、気持ちなどを話す機会より増やしたり、内容を深めたりすることができるようなやりとりをしていきたい。

・メリハリ（静と動）がある活動内容で良かったと意見をいただいたので、より意識して活動内容を今後も工夫していきたい。

目標について（…妥当性、はかにねらうべき内容

妥当であった

授業者が聞きたいこと②

多動な部分をどの程度コントロールできるようになってほしいか

聞く場面、活発に体を動かす場面というように活動にメリハリがあったので、聞く体勢を保ちやすかったのではないか。

良かった点
課題点

イ　授業研究会の報告【ワークショップの記録より】

良かった点

見通し

活動の流れが理解できていて、すすんで取り組んでいる。

教師の関わり

教師が程よい関わりであり、児童の自発的な発信を引き出していた。

教師が児童たちの言葉を拾い、伝えていた。

選ぶ、話題の広がり、友達意識

好きなメニュー発表
…選ぶ、会話が発展
表現、友達との関わり

クラスメイトの関わり
友達を思いやったり、共感したりする場面が良かった。

楽しみなメニュー紹介
給食のために勉強を頑張ろうと励みになったり、友達の楽しみなメニューを知ることで他の人も楽しみな気持ちがわくと感じた。

子ども同士の関わり

友達との関わりが多くの場面で見られた→活動の流れの中で仕組まれていた。

友達とのやりとりが多かったところ

子ども同士のやりとりの場の設定が◎でした。例：カードを手渡す。（できたらハイタッチ）役割決めと確認。

子どもたち同士の関わりが多くて良かった。

発表やカードを貼ったあとに拍手やハイタッチが自然にあった。

健康観察で人数を数える
数を数える学習になっていることはもちろん、メンバーで一日を過ごす集団意識が感じられて良い。

会における自分の役割や自分の[illegible]達の番など状況を見ながら[illegible]ている姿が良かった。

活動内容と流れの工夫：メリハリ

学習内容、量が適切な量でメリハリがあった。

聞く、お話、歌
メリハリがある

学習内容、量が適切な量でメリハリがあった。

当番をよく見て話を聞くことができていて良かった。
一方で歌や身体を使った場面では楽しそうに取り組んでおり、メリハリがあった。

活動内容の工夫

楽器演奏で一斉にではなく、一人ずつ前に出て発表し、楽しんで積極的に取り組んでいるところがよい。

日直以外の係/役割

係りの仕事
一人一役で、活動量を確保している。

一人一人に役割があっていいと思った。毎日違う係でもやる内容がしっかり理解できていいいと。

自分の係を理解し、一人一人自主性をもって活動していた。（場の設定）

友達や先生とのやりとりを楽しみながら係の活動ができている。

当番以外にも係を設定することで、主体的な活動になっていた。

日直が係を選ぶ

係分担を当番が決める[illegible]
タンブリンリレー[illegible]
→人との関わ[illegible]

[illegible]直が選ん[illegible]こと(主)(深)

[illegible]日直が選ぶ→意欲
友達との関わり
選んでいた/お願いされた

妥当であった

授業者が聞きたいこと②
多動な部分をどの程度コントロールできるようになってほしいか

聞く場面、活発に体を動かす場面というように活動にメリハリがあったので、聞く体勢を保ちやすかったのではないか。

課題と改善案

今後の授業や単元・題材に向けて

（目標の見直し、指導内容の改善：教材教具・場の設定・教師の働き掛け、発展性等）

・対話により、気持ちなどを話す機会より増やしたり、内容を深めたりすることができるようなやりとりをしていきたい。

・メリハリ（静と動）がある活動内容で良かったと意見をいただいたので、より意識して活動内容を今後も工夫していきたい。

具体的な改善策の提案

ウ　改善策を取り入れた実践報告【授業改善記録シートより】

取組期間	何の授業／場面	実施した内容	児童の変容の様子など
10月～	日常生活の指導：朝の会	係が指示棒を使用し、給食献立を発表する。	・指示棒を持つことで、役割への認識、意欲の高まりが見られた。 ・聞く側の児童は、どこを指しているか注目しやすくなった。また、自分もその係をしてみたいという気持ちをもつようになった。
10月～	日常生活の指導：朝の会	会の中での役割を日直の司会の他に増やし、全員が係の仕事に取り組むことができるようにした。また係の仕事をイラストで表にして示した。 ・天気選び ・給食ボード持ち ・給食発表	・係決めのときは皆わくわくドキドキしながら日直が決める様子を見ている。 ・決定した係の発表を通して、児童同士のやり取りの場が増えた。またそのやり取りの方法をパターン化したことで、どの児童もやり取りをしやすくなった。 ・以前より日直以外の児童もより意欲的に朝の会に参加するようになったと感じる。 ・自分の係を意識、理解し自分から行動して係活動に取り組んでいる。
10月半ば～ (研究会後から)	日常生活の指導：帰りの会	一日の振り返りの際、「どのようなことが楽しかったのか、頑張ったのか」を学習名から選ぶだけではなく、内容についても聞くようにした。	・楽しかった活動として「さんぽ」とAさんが話したことに対して、「歩いたこと」「山」「滑り台」「ブランコ」と尋ねると「山」と答え、「山を走ったね」と伝えると「山走った」と返し、最終的に「山を走ったことです」と発表することができた。 ・他の児童もこのやり取りや発表に注目しており、自分は「歩いたこと」など自分から発言する様子が見られた。 ＊今後も友達の様子を見て学びながら、表現方法を広げていくことができるようにしていきたい。

他の学級で有効だった手立てを活用

発問の仕方（教師との対話）を見直し

４　小学部研究のまとめ

（１）成 果

ア　グループ研で具体的な授業改善策を協議

↓

次の実践に反映、単元・題材のアップデート

↓

児童の学びの充実（実際の生活に生かす、生きる力）

（1）成果

イ　授業改善を意識した授業づくりの積み重ね

↓

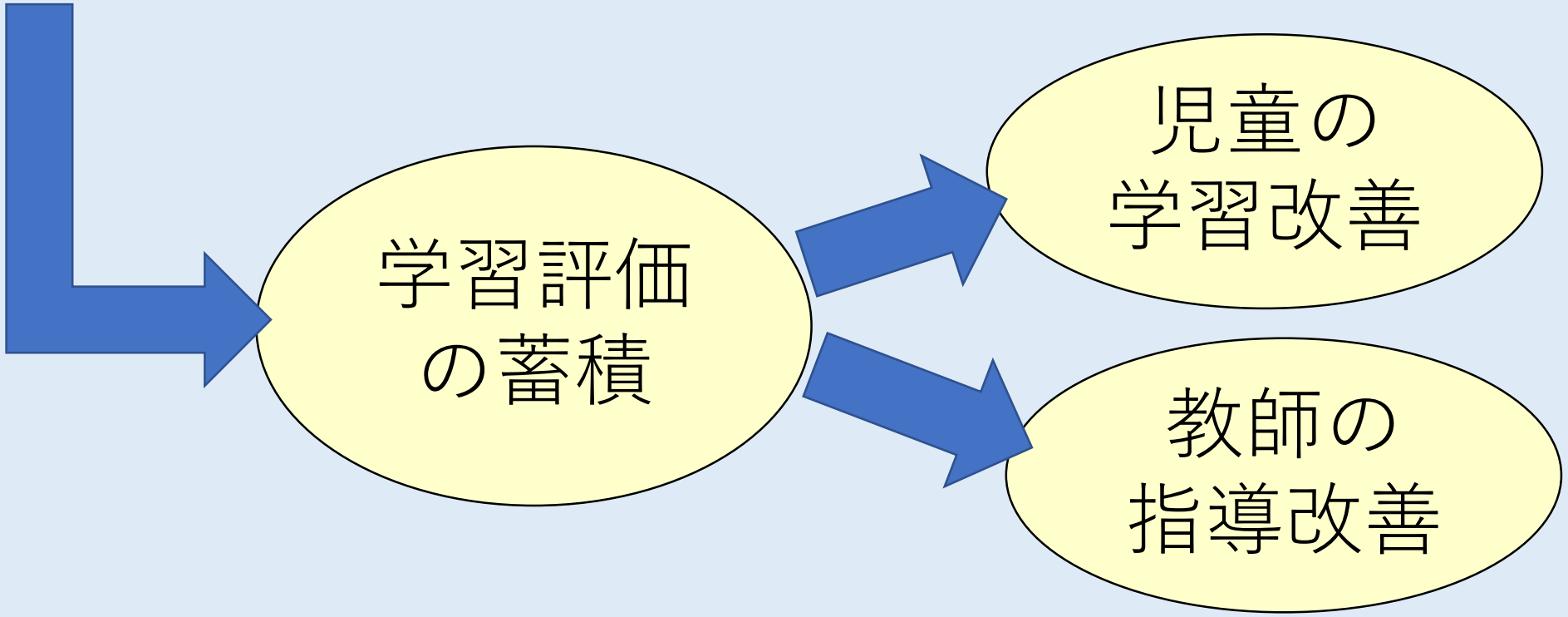
グループ内で手立てを活用（該当学級以外の児童にも有効）
授業づくりの視点を教師間で共有

↓

単元構成・年間指導計画の見直し
カリキュラム・マネジメントの視点

（2）課題

ア　学習状況の記録の仕方の工夫が必要



（2）課題

イ

・教材教具等、有効だった手立ての共有

・当該単元・題材で取り扱う教科、育成を目指す資質・能力の明確化

学びの連続性・系統性
（教科等横断的な学習の充実）

本校中学部　実践報告

１　中学部の研究について

＜テーマ＞
　縦（高等部）のつながり、
　横（中学部作業班同士）の連携

＜教師の位置づけ＞
①各作業で共通にできることを整理し、進級や高等部に入学した際に生徒達がスムーズに移行できることを目指す。
②情報共有し、同じ目線で支援する。

２　目指す生徒の姿

（１）個々の目標を生徒自身が確認しながら作業学習に取り組むことができる。

（２）意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くことができる。

3　研究の進め方

高等部から情報提供を受ける（研究部間でのやりとり）

→

研究部提案を作業班ごとに検討

→

学部全体で検討

→

授業研・研究会

→

ピックアップ生徒の情報交換をとおして授業検証（3回）

→

まとめ（内容や活用方法の確認）

４　検討事項

（１）入退室の仕方
（２）服装確認の内容
（３）挨拶練習の内容
（４）始めの会、終りの会の流れ
（５）作業日誌の内容（評価の仕方含む）
（６）作業日誌の活用の仕方
　　（作業室に置くのか、持ち帰るのか、など）
（７）コラボについて
（８）生徒の選出（通常学級、重複障がい学級から各１名）

5　授業研について

提案授業：作業学習　工芸班

単元名　「じまん市②に向けて、製品を作ろう」

日　時　令和７年10月３日(金)１～６校時(9:10～14:45)

場　所　中学部工芸室

扱った各教科等　職業・家庭科、国語科、数学科(算数科)、
美術科(図画工作科)

５　授業研について

＜協議の柱＞

（１）ドア表示は有効であったか。（各班での様子確認）
・生徒が見やすい場所の表示を考える。
・ドア横など、生徒の実態に合わせる。

（２）始めの会、終わり会の流れ（生徒の活動）は良かったか。
　また、時間をどう考えるか
・始めの会　約７分、終わりの会１０分程度でちょうどよい
　感じであった。（要点をしぼる）

５　授業研について

＜協議の柱＞

（３）日誌を活用しての反省では、自己反省ができていたか。
　様式は良かったか。

・絵マークのある日誌では、ただ〇をつける傾向があった。
　反省が生かせるよう、絵マークの有無など実態に合わせて
　工夫する。他は、自己反省ができていた。

・基本形をもとにして、作業の実態に合わせて作業内容の
　写真の有無や自己評価ができるように応用していく。

５　授業研について

＜協議の柱＞

(４)生徒の実態に合わせた支援が行われていたか。

工芸班：生徒が「やりたい仕事」と「できる仕事」などを
　　自分で選んで取り組んでいて良かった。

カレンダー班：理解を深めることができる生徒への理由付けを
　　もとに支援している。
　　自身の体調に応じて作業姿勢を選択していて
　　良かった。

リサイクル班：個別の支援が共通の手立てになった。
　　電動シュレッターのガイドを作成して、意欲付けに
　　つながった。
　　ミキサーの作業の構造化を図った。

６　成果と課題

〇成果

（１）「入退室」「挨拶」「始めの会や終わりの会の流れ」「日誌」など、基本的なことを確認し、職員間の意識統一ができた。

（２）個別の支援が共通の手立てになった。

（３）生徒の情報交換することで、支援の仕方や効果など確認することができた。

日誌の例（工芸班：ビーズ工房）

作業日誌（工芸班）

月　日　曜日

目標（単元目標）

個人目標

今日の作業（○をつけましょう）

めもちょう工房	スタンプ　ミシン目　コースター 牛乳パックきり　その他（　　）
ビーズ工房	キーホルダー　ストラップ　ヘアゴム マグネット　その他（　　）
あみものミシン工房	たわし　きんちゃく　イス その他（　　）

ふりかえり

できた○
できなかった△

1	あいさつ、報告、返事ができた	
2	指示を聞いて作業できた	
3	最後まで 作業に 取り組んだ	
4	個人目標を 達成できた	

がんばったこと
または
きをつけること

先生から
担当の先生に
記入してもらいましょう

作業日誌（工芸班）

月　日　曜日

目標（単元目標）

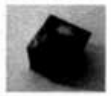
個人目標

今日の作業（○をつけましょう）

ビーズこうぼう

キーホルダー　ストラップ　ヘアゴム

マグネット　そのた



ふりかえり

できた○
できなかった△

1	あいさつ、報告、返事ができた	
2	はなしを聞いて作業できた	
3	がんばって作業に取り組んだ	
4	個人目標を 達成できた	

先生から
担当の先生に
記入してもらいましょう

作業日誌（工芸班）

月　日　曜日

目標（単元目標）

じまん市3 むけて製品作りをがんばろう！

個人目標

今日の作業（○をつけましょう）

ビーズこうぼう

キーホルダー　ストラップ　ヘアゴム

マグネット　そのた

ふりかえり

1	あいさつ、報告、返事ができた	
2	はなしを聞いて作業できた	
3	がんばって作業に取り組んだ	
4	個人目標を 達成できた	

先生から
担当の先生に
記入してもらいましょう

６　成果と課題

〇課題

（１）日誌では、基本をもとに実態に合わせて応用（改良）していく。

（２）帽子の取り扱いについて生徒から「どうして帽子をかぶるのか」と、質問があった。
「安全面」「衛生面」を踏まえて生徒に伝える内容を検討し、来年度学部集会で生徒に説明する。

7　まとめ（生徒の変化を通して）

- ドア表示を意識して入室や退室のときの挨拶するようになった。
- 日誌が変わってから自己評価しやすくなった。
- 自己評価することで、自分の課題に対して意識できるようになってきている。
- 反省を生かして作業することができるようになった。
- 重複障がい学級の生徒も、イラストや職員の指の数を使った支援で振り返りができた。
- 作業内容を理解し、見通しをもって取り組む生徒が増えている。

7　まとめ（職員の立場から）

・日誌の使い方の点では、担任のところで日々の目標を個別の指導計画をもとに設定し日誌に打ち込むと、時間によって担当職員が変わっても目標は共有しやすく、手だても講じやすい。
・生徒の実態として、生徒が目標を目標として理解しきることには限界があるかもしれないが、対応する職員が、個人的な思いにとらわれず、目標を頭に入れながら、その時々の手立てとその成果を共有しながら指導を進めていく姿勢が大事だということを共通理解できた。
・「生徒の目標＝指導する大人側にとっての共通の方向性」であると共通理解できた。

本校高等部　実践報告

1　高等部研究の目的

　一人ひとりの生徒が高等部卒業後に地域社会の中で役割を果たし、生涯にわたって充実感をもちながら、自分らしい生き方を実現するために必要な基本的な力の育成を図る。

（１）　キャリア教育の視点に基づく「育てたい力」を育成するための作業学習の実践を目指す。

（２）　生徒一人ひとりが学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、集団の中で自分の役割を果たしたり、誰かの役に立ったりする経験を通して働くことの意義や価値を実感できる作業学習の実践を目指す。

２　研究の内容

（１）１年次の取組及び高等部の目指す生徒の姿、身に付けたい力の共有（Ｒ５ 花清魅力化プロジェクト資料より）

（２）年間指導計画構想シートの作成

・地域とのつながりをもった校外学習や活動内容の計画
・各単元の目標及び具体的な本時の目標の検討（身に付けたい力を踏まえて）
・単元で扱う各教科等の内容の明確化

（３）質の高い製品づくり

・作業製品、パッケージの改善

・販売に関するアイデア（ポップ、のぼりなど）

（４）研究授業

アグリ課：秋の農業「こたままつりで野菜を販売しよう」

（５）全校授業研究会　１２／５（金）

（６）学部研究のまとめ

３　研究の経過

	研究会・月日	内容
1	学部研究会①・５月７日（水） （学部全体）	・Ｒ５から今までの作業学習改革の流れの確認 ・今年度の高等部研究について
2	学部研究会②・６月１８日（水） （各作業課）	・「作業製品ブラッシュアップミーティング」の資料作り ・「年間指導計画構想シート」の作成
3	学部研究会③・７月８日（火） （各作業課）	・「作業製品ブラッシュアップミーティング」の資料作り ・「年間指導計画構想シート」の作成
4	作業製品ブラッシュアップミーティング 講師：フリーグラフィックデザイナー 　　高橋菜摘　様 ７月２２日（火）	・各作業課の製品を共有 ・プロのデザイナーから製品やパッケージなどへのアドバイスをもらう
5	学部研究会④・８月２６日（火） （各作業課）	・「年間指導計画構想シート」の作成
6	学部研究会⑤・１０月１４日（火） （各作業課）	・「年間指導計画構想シート」の作成
7	研究授業・１０月２９日（火）	・アグリ課　秋の農業「こたままつりで野菜を販売しよう」

8	学部研究会⑥・１１月１１日（水） （各作業課）	・「年間指導計画構想シート」の作成
9	全校研究会・１２月５日（金）	・アグリ課　秋の農業「こたままつりで野菜を販売しよう」
１０	学部研究会⑦・１２月２４日（水） （各作業課）	・「年間指導計画構想シート」の作成（完成日）
１１	学部研究会⑧・１月２０日（火） （各作業課）	・学部研究のまとめ

4　研究実践

（１）１年次の取組及び高等部の目指す生徒の姿、身に付けたい力の共有
（Ｒ５ 花清魅力化プロジェクト資料より）

【３年間で（卒業までに）付けたい力】 ※8/1に考えた付けたい力と学校教育目標・花清キャリア全体計画を照らし合わせ、いわてのキャリア教育指針により整理

総合生活力	確かな学力	・**基礎学力**（分かる、できるようになる） ・**問題解決力**（困った時にどう対処するか、困った時に相談できる、ポジティブさ、ストレスへの対処 等） ・**情報収集・活用能力**（ICT 活用 等）
	豊かな心	・**社会性、コミュニケーション力**（挨拶、返事、聞く、話す、自分なりの発信、仲間と声を掛け合う、困った時に助けを求められる、当たり前のマナーやルール、礼儀 等） ・**人間性**（相手を思いやれる心、感謝の気持ちをもてる、間違いをごまかさない誠実さ 等） ・**協調性**（進んで協力、貢献する意識・態度 等） ・**継続、持続力**（根気、ストレスへの対処 等）
	健やかな体	・**身辺自立**（身だしなみ、清潔さ 等） ・**健康、体力**（健康管理とその意識 等）
人生設計力	社会を把握する能力	・**状況判断**（周囲を見て動く、自分で考える 等）
	勤労観・職業観	・**自己理解**（自分は何が得意なのか、何が難しくて、その対処はどうすればよいか 等） ・**主体性**（目的意識、自ら行動する、決められたことを自分からやる、新しいこともやってみようと思う 等） ・**責任感**（何事も最後までやり遂げる 等）
	将来設計力	・**自分のよさや可能性の認識**（何事も一生懸命に、楽しんで、前向きに、自信をもつ、自分のよさや強みに気付く 等） ・**目的意識**（自分で目標をもつ） ・**自己選択、自己決定力**（選ぶ、決める 等）

＝地域で生きる・地域で働く人になる 力の育成

※人（友達、自分の周りにいる誰か、地域の方）とつながりながら
※働く：社会の中で、自分らしく、様々な役割を果たす

（２）年間指導計画構想シートの作成　例）アグリ課

令和7年度　高等部（アグリ課）年間指導計画構想シート

R7　高等部研究

【目標】
・基本的な農業の知識や技術を身に付けながら、職業や将来の生活に関する事柄について理解し、勤労の意義や自分の課題に気付き、解決する力を身に付ける。
・花巻周辺の特産物や農業について知識を深めたり、身に付けた技術を生かして地域の人たちと関わったりすることで、自分の地域の良さを知ることができる。

1）屋外で作業する準備や野菜の栽培などの基本的な農業の知識と技術や、将来の職業や生活に必要な技能を身に付けるようにする。
花巻周辺の特産物や農業について知り、農作業を通じて地域の人に教えてもらったり、手伝ったりする体験をすることができる。（知識・技能）

2）野菜の生育には自然環境と深く関係していることに気付き、それらに適した栽培方法を調べたり実践したりしながら、職業における自分の課題に気付き、解決の方法を見つけ、改善できるようにする。
地域とのかかわりを通して、地域の特性や良さを考え、自分の社会での役割に気付くことができる。（思考力・判断力・表現力）

3）野菜の栽培を通して、野菜を育て提供する喜びを感じ、農作業に興味をもって取り組み、身に付けた技術を地域で役立てようとする。（主体性等）

月	時数	行事等	題材・単元名	身に付けたい力	単元目標	学習活動	学習内容
4		・2年生新作業課スタート ・1年生課選択	春の農業 ～農業の準備をしよう～	・身だしなみ（準備） ・就労意識 ・危険回避 ・忍耐力 ・挨拶	・作業学習の意義やアグリ課の 1 年間の作業内容を確認し、見通しをもつことができる。 ・屋外で作業するときの心構えや身支度を覚え、実践することができる。 ・農業の道具の名前や扱い方を覚え、除草や土づくり、播種など農業の基本的な技術を身に付ける。	・作業学習について ・屋外で作業するときの身支度について ・第一次産業としての農業 ・除草、土づくり（天地返し）、マルチ張り ・播種、苗の定植 ・道具の名前と使い方 ・校外学習（摘果作業：たかともリンゴ農園）	・職業高1－A 職業生活ア勤労の意義（ア） ・職業高1－A 職業生活イ職業（ア）㋑、（イ）㋒ ・理科高1－A 生命ア（ア）㋐ ・国語中1－ア（カ） ・国語中2－A 書くこと・話すことア ・社会高1－エ産業と生活（ア）㋐
5			春の農業 ～野菜を育てよう～				
		・前期校内現					

6		場実習					
7 8 9		・夏季休業 ・夏季休業	夏の農業 ～夏野菜を収穫しよう～	・就労意識 ・体調管理 ・衣服の調整 ・効率化 ・野菜の扱い方	・除草や灌水などの野菜の栽培の作業について必要性を知り、実践することができる。 ・夏野菜を収穫し、調整や販売の方法を知ることができる。 ・野菜の成長に目を向け、自然環境との関係や、種類によって作業が違うこと感じ、成長や収穫に喜びを味わうことができる。 ・厳しい気候条件の中、熱中症等に気を付けながら、作業を行うことができる。	・野菜の栽培について ・除草、灌水、収穫、調整 ・袋詰め、販売 ・校外学習（除草作業:もんのすけ農園） ・道具の手入れなど	・職業高Ⅰ−A 職業生活ア勤労の意義（イ）（ウ） ・職業高Ⅰ−A 職業生活イ職業（ア）㋒、（イ）㋐㋑㋓ ・理科高Ⅰ−A 生命ア（ア）㋒、（イ） ・理科中2−B 地球・自然イ天気の様子（ア）㋐ ・国語中2−A 書くこと・話すことエ ・社会高Ⅰ−エ産業と生活（ア）㋑ ・数学中Ⅰ−C 測定ア（ア）㋓、（イ）㋐
10		・後期校内現場実習 ・道の駅販売会					
11		・こたままつり	秋の農業～こたままつりで育てた野菜を販売しよう～	・就労意識 ・効率化 ・野菜の扱い方	・販売活動を通して、作った野菜が消費者の手に渡る流れや販売に必要な準備について理解し、計量や袋詰め、値札付けなどを行うことができる。 ・育てた野菜を多くの人に	・秋野菜の収穫（サトイモ・ダイコンなど）調整 ・袋詰め ・販売 ・振り返り（報告会）	・職業高Ⅰ−A職業生活ア勤労の意義（イ）、（ウ） ・職業高Ⅰ−A職業生活イ職業（ア）㋒㋓、（イ）㋐㋑㋒ ・社会高Ⅰ−エ産業と生活（ア）㋑ ・数学中Ⅰ−A数と計算イ

					買ってもらうために、どのように準備や調整、販売をすればよいかや工夫をすることができる。 ・育てた野菜を準備することや買ってもらえることに喜びを味わいながら、仲間と協力して販売活動に取り組もうとする。		(ア)㋓ ・道徳中ーB
			秋の農業～ダイズを収穫しよう～	・就労意識 ・健康管理 ・衣服の調整 ・効率化	・秋の収穫作業や畑の片づけなどを行うことができる。 ・秋の苗を定植することで、野菜の種類によって栽培の時期や方法が違うことを知ることができる。	・ダイズの収穫、乾燥 ・秋の苗（タマネギ・ニンニク）の定植 ・畑の片づけ	・職業高Ⅰ－A職業生活ア勤労の意義（イ）、（ウ） ・職業高Ⅰ－A職業生活イ職業（ア）㋒㋓、（イ）㋐㋑㋒ ・国語中2－A 聞くこと・話すことイ
12 1 2 3		・冬季休業 ・冬季休業 ・作業報告会 ・2年生課選択／準備期間 ・3年生卒業	冬の農業 ～ダイズの調整や選別をしよう～	・就労意識 ・効率化 ・軽作業の継続 ・報告 ・集中力	・農閑期の農作業の体験を通して、農業の年間の仕事を知るとともに、屋内での軽作業を通して、集中力や報告などの力を身に付ける。 ・ダイズを通して地域の農産物や加工の技術、流通について知ることができる。 ・一年の活動をまとめ、わかったことや身に付いた力などについて振り返ることができる。	・大豆の調整（さやもぎ、まめとり、選別） ・道具の手入れなど ・納会（報告会）準備 ・みそ加工について ・ネギの苗づくり	・職業高Ⅰ－A職業生活ア勤労の意義（イ）、（ウ） ・職業高Ⅰ－A 職業生活イ職業（ア）㋒、（イ）㋐㋑㋓ ・国語中2－A 聞くこと・話すことア ・社会高Ⅰ－エ産業と生活（ア）㋒

（３）質の高い製品づくり

作業製品ブラッシュアップミーティング

【日時】　令和７年７月22日（火）
【講師】　フリーグラフィックデザイナー　高橋菜摘さん
【内容】　・商品開発において必要なこと
・開発の順番
・製品に対するアドバイス
例）手仕事課の布製品にタグをつけてはどうか
木材加工課の「なんでもトレー」のネーミング変更
➡「SEIFU　BOX」

（４）研究授業
　　アグリ課　秋の農業「こたままつりで野菜を販売しよう」

＊「全校研究授業及び授業研究会」での報告のとおり

（５）学部研究のまとめ

①目的について

【成果】

・教育課程上で研究を進めるとなったとき、作業学習は取り組みやすかった。

・年間指導計画構想シートを作ったことで、目標を生徒にすぐおろすことができ、研究の目的に迫ることができた。

・地域とのつながりをもった活動を通して、誰かの役に立ったり、働くことの意義や価値を実感できたりすることができた。

・地域の方から評価をいただき、事後学習で振り返ることで、生徒の自己有用感につなげることができた。

・年間指導計画構想シートを作成することで、段階的に育てたい力を整理し、職員同士が共通理解して授業実践をすることができた。

・目的を明確にしたことで、それに沿った授業や校外学習をすることができた。

【課題】

・作業課として、研究の目的を深堀りしていく時間がもっとあってもよかった。

・自己の将来をイメージできている生徒が少ない。生徒一人ひとりがイメージをもてるような学習活動を進めていきたい。

②研究実践について

【成果】

・年間指導計画構想シートを作ることで、年間の見通しや付けたい力を確認することができ、これをもとにして個別の手立てや評価を行うことができた。

・年間指導計画構想シートの作成を通して、学習指導要領を改めて確認することができた。

・来年度以降も活用できるものができてよかった。

【課題】

・単元ごとに、職員間で構想シートの内容を共通理解する時間があるとよい。

・定期的な見直しが必要。

・教科の観点を意識的に盛り込むように心がける。

遠野分教室小学部　実践報告

1　共有した目指す姿

低学団

主体性
・どんなことでもやってみようとする。
・活動に最後まで繰り返し取り組むことができる。

興味関心
・いろいろな人や物に興味をもつことができる。
・教師や友達との関わりを楽しんで活動する。
・興味関心を広げ、落ち着いて過ごせることを見つける。

集団参加
・安定した気持ちで生活したり活動に参加したりする。
・活動に見通しをもってみんなと一緒に参加する。
・快の表情で活動に取り組む。・待つ。

意思表示
・怒る以外の伝える方法を身に付ける。
・楽しみなことを選び、伝えることができる。

高学団

コミュニケーション
〇発信
・自分の気持ちを相手に伝えようとする。
・自分から発信する。(＋好き、もっとやりたい)
(－手伝いの依頼、困っていること)

〇人との関わり
・相手の気持ちや周囲の状況を考えて行動することができる。
・友達と仲良く遊んだり、活動したりできる。
・周囲と関わろうとする気持ちを育む。
（会話「一緒にやろう」「手伝うよ」、応援、協力など)

身辺処理
・身の回りのことを自分でできる。

自己理解
・自分の好き嫌いや得意不得意を知る。活動を取捨選択する。
・支援を受け入れて難しい事にも挑戦しようとする。

考える力
・どうしたらできるようになるかを考える。

気持ちのコントロール
・気持ちの切り替えができる。
・思い通りにいかないときに、その状況を受け入れることができる。(変化への対応)

2　研究の進め方

〇学部全体で研究に取り組んだ。

（1）単元の検討

（2）単元の実施（評価・改善含む）

（3）研究授業・授業研究会の実施

（4）単元の評価

（5）学部研のまとめ

3　研究授業の紹介

扱う指導：生活単元学習

対　象　：1年生　2名

4年生　4名

6年生　2名　　計8名

単元名　：はなせいレストランをひらこう

扱った各教科等：生活科、国語科、算数科、図画工作科

単元の授業紹介

苗植えと収穫は、併設校の児童と一緒に取り組んだ。

事前学習

栽培活動

誰に食べてもらいたいか考える

収穫

おもてなしについて考えよう

はなせいレストランをひらこう

振り返り

研究授業の紹介～おもてなしについて考えよう～

れすとらんで
おもてなしを
したい！！

どのようなお店・おもてなしがあるのかを知る

「屋台」と「レストラン」のどちらのお店を開いて、おもてなしをするか多数決

お店の名前を考える
（校外学習で行ったレストランを思い出しながら･･･）

自分たちも
やってみた
い！！

教師も教材に
・ＴＩとＴ２で演じておもてなしの手本を見せることで、児童の注目を集めて引きつけることができた。

「はなせいレストランをひらこう」
〇お店形式のおもてなし
〇店名を考える　→児童の興味や経験を取り入れた活動

本時の授業紹介～おもてなしについて考えよう～

教師のロールプレイを見て
やりたい仕事を決める。

お客さんに喜んでもらうための
おもてなしを考えながら、練習をする。

・教師がおもてなしの手本をやってみせることで、どんな仕事があるのか見通しをもつことができたり、期待感や意欲を高めることができた。
・仕事カードがあることで、どの児童もやりたい仕事を選ぶことができた。

4　まとめ

【成果】

<u>指導形態について</u>

【指導者にとって】

〇毎年行われる通年を通しての活動を学部全体で深く考える機会となり、職員全員で分担しながら指導を進めることができた。

〇学部全体で授業研を行い、児童の実態把握や目標など、学部で共有しながら進めることができた。

〇昨年度の研究を生かして、児童の収穫に対する意欲を高めることができるような単元計画を設定することができた。

４　まとめ

【成果】

<u>指導形態について</u>

【児童にとって】

〇学部全体で取り組むことにより、低学団も高学団もお互いに良い刺激を受けながら学習することができた。

〇さつまいもの栽培活動を通して、併設校の児童と交流を深めることができて良かった。

〇レストランという題材に興味関心をもち、これからの学校生活や将来の生活に活かしていける活動になって良かった。

4　まとめ

【成果】

目指す姿について

〇児童が自ら進んで活動しようとする姿が多く見られ、目指す姿に迫ることができた。

〇「目指す姿」〝挑戦する〟

→おもてなしでは緊張しながらも、丁寧に接客する姿を見ることができた。

４　まとめ

【課題】

〇児童の主体性について、選択肢から選ぶだけではなく、自分のアイデアを引き出すような工夫を取り入れられると良かった。

〇学部全体で授業をする際は、集中が続かない児童への場の設定（グループの組み合わせ、活動する位置）や頑張るポイントの提示など分かりやすい場を設定できると良い。

〇３年間続けて生単を扱っているので、同じ生単でも違う単元設定でも良かった。

感想など

〇今回の研究をベースに、さつまいも単元を継続していければ良い。

遠野分教室中学部　実践報告

1　研究内容

『　合わせた指導における
タブレット端末の活用について　』

様々な学習場面におけるロイロノートの活用
～　一人ひとりの自立と社会参加を目指して　～

2　共有した目指す生徒像

・遠野分教室中学部　学部目標

（1）　心身の状態を認識し体調に合わせた行動がとれる生徒
（2）　活動を提案し実行するために考えることができる生徒
（3）　心地よい生活を送るための約束やきまりを大切にする生徒
（4）　言葉（代替手段含む）を用いて自分の思いを表現できる生徒

・キャリア教育全体計画

1　学校目標
（1）　丈夫な体と、思いやりのある豊かな心をもつ人
（2）　自ら楽しさ、やりがいを見つけ、生き生きと生活する人
（3）　約束、きまりを守り、進んで行動する人
（4）　互いに気持ちを伝え、協力して活動する人

2　学部目標
（中学部）集団や他者との関係の中で、自分で選択・活動をし、自己発揮する。

3　キャリア教育学部方針
（中学部）社会生活に対する関心を向け、みんなと共に働くことや自分らしさを
表現する力が身に付くよう支援する。

２　共有した目指す生徒像

・活動を実行するために自ら考える

・自分で選択・活動をし、自己を発揮する

・言葉（代替え手段を含む）を用いて自分の思いを表現する

３　研究の方法

（１）生活単元学習における実践

（２）作業学習における実践

（３）実践内容についての検討

（４）実践のまとめ

4　研究の経過

月	内　容
4 月	遠野分教室中学部研究について ・テーマ・研究内容の方向性について確認 授業実践①　「春をさがそう」（生活単元学習）
5 月～	校内研究の概要確認 授業実践②　「作業日誌の記入」（作業学習）
6 月	研究の進め方について検討 目指す生徒像について確認
7 月	GIGAスクール研修会「ロイロノート・スクール入門」の受講 ・基礎的事項の確認
8 月	作業日誌の改善 ・読み・書きの難しい生徒の作業日誌の様式について検討
9 月	授業実践③　「非常食体験～災害にそなえよう～」（生活単元学習）
10月	実践内容についての検討
11月	研究のまとめ①
12月	研究のまとめ②

5　研究実践

（１）春を探そう

ア　内容

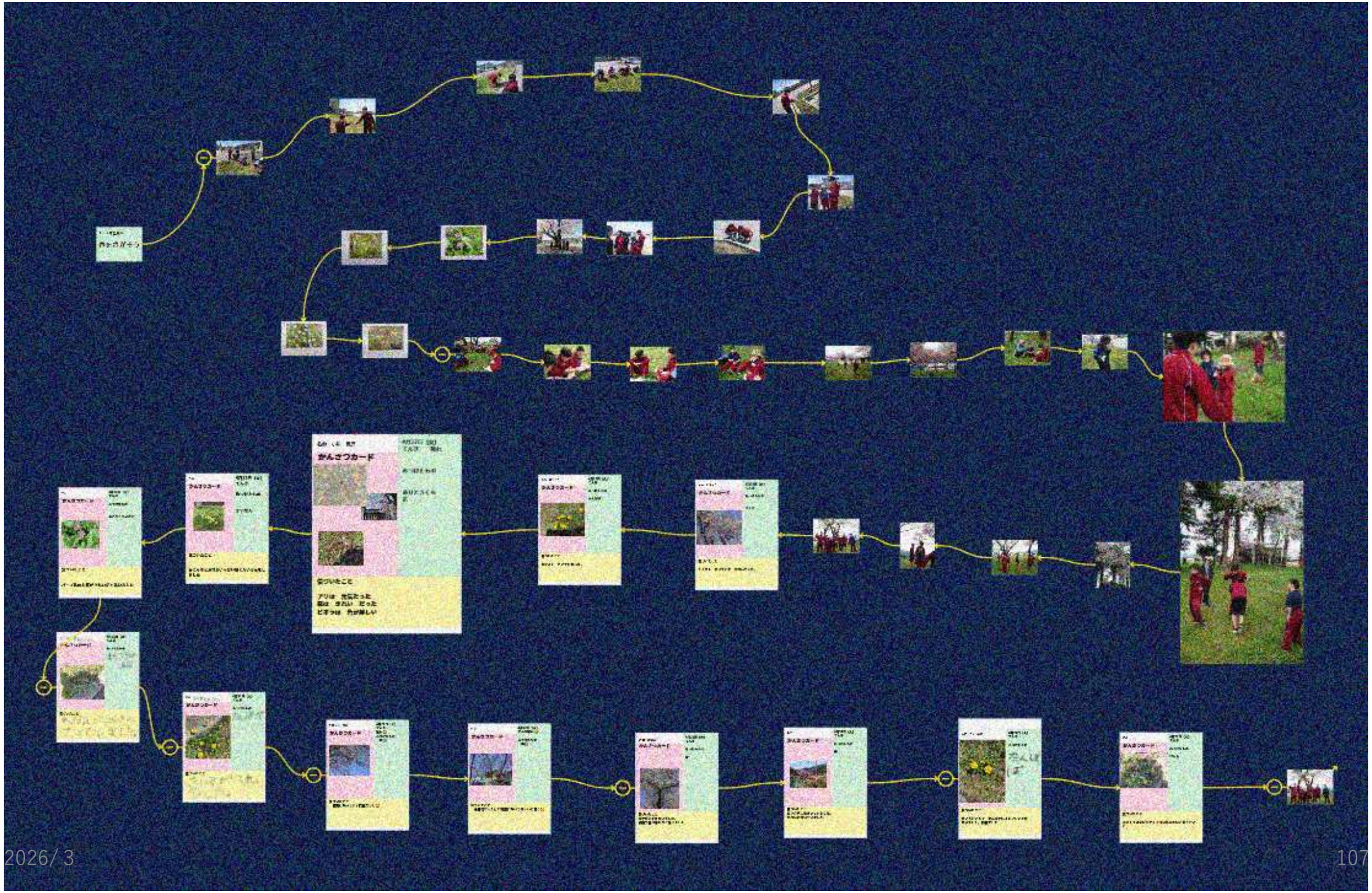
学校敷地内の植物に目を向け、見つけた草花を友達に紹介する。

イ　学習の実際

・生徒一人一人がタブレットをもち、学校敷地内を歩いてまわり、見つけた草花の写真を撮る。
・まとめ用の様式データに写真を貼り付けたり、知らない花の名前をインターネットで調べる。
・見たこと、感じたことなどのコメントを記載する。
・調べた内容を皆の前で発表する。

＜基本の様式＞

＜写真+気づいたこと＞


かんさつカード
気づいたこと

ウ　成果と課題

・成果　　初めてロイロノートを使う生徒にとって、写真の貼り付けや文字入力など基本的な操作を確認することができ、良かった。
生徒は各自のタブレットをもって観察に出かけみつけたものをすぐに写真に撮るなど、生き生きと活動に取り組んだ。
生徒は調べた内容を自信をもって発表することができた。

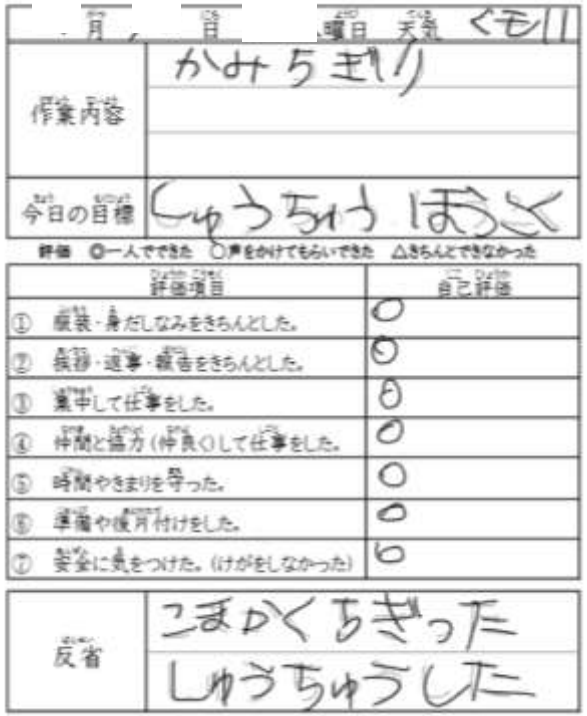
・課題　　職員が不慣れで、どのように入力するのか、どのような機能があるか理解しておらず、操作に時間がかかる。

5　研究実践

（2）作業日誌

ア　第１段階　作業日誌（紙）への記入
⇒　タブレットでの記入

＜基本の様式＞



＜手書き（なぞり）＞

＜文字入力+手書き＞

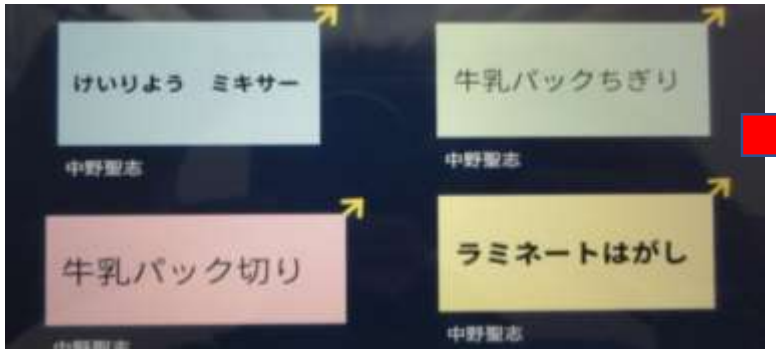
イ　第１段階における成果と課題

成果　・タブレットの利用により生徒が興味をもち自分から記入しようとする姿が見られた。
・記入された作業日誌をスクリーンに映し出し、みんなで共有することにより、他の人の取り組みの様子を確認することが容易になった。

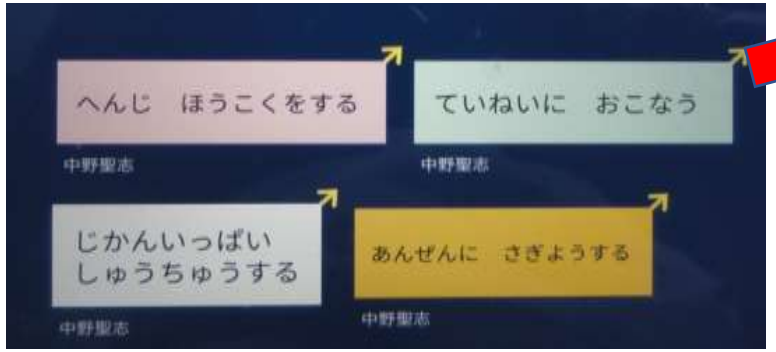
課題　・文字の入力・記入に時間がかかったり、目標に何を書いたら良いかわからない生徒は職員との対話が必要で、記入に時間を要することがある。

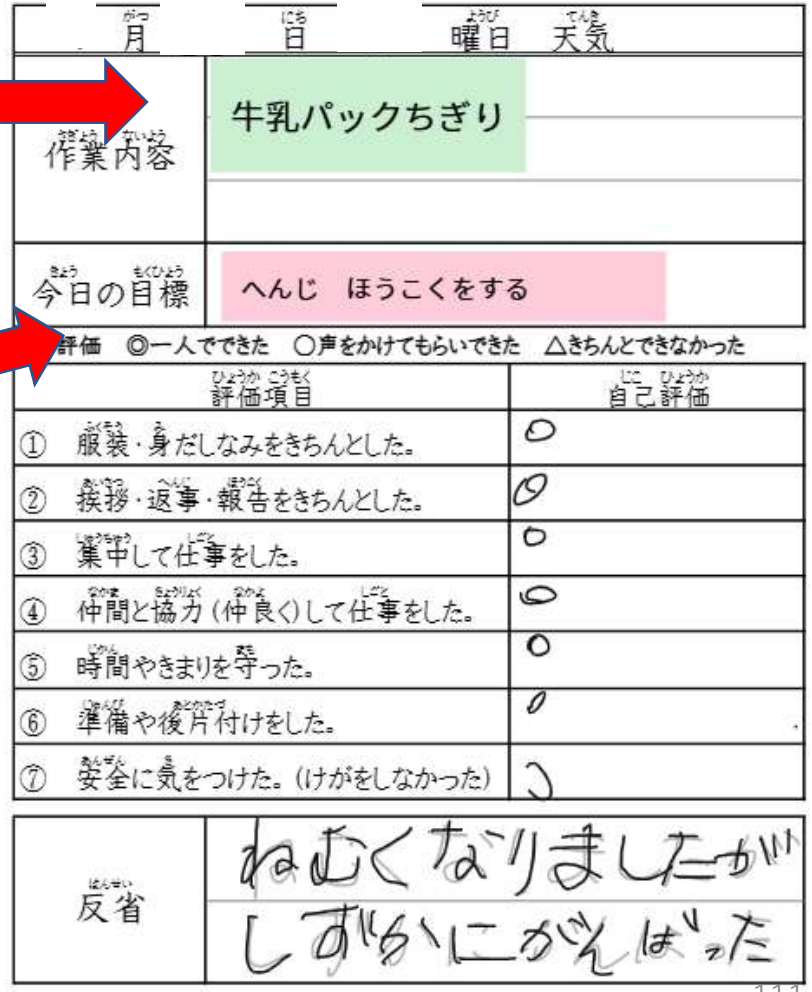
ウ　第２段階　「作業内容」や「目標」のタブを予め準備

作業内容



目標





月	日	曜日	天気
作業内容	牛乳パックちぎり		
今日の目標	へんじ　ほうこくをする		

評価　◎一人でできた　○声をかけてもらいできた　△きちんとできなかった

評価項目	自己評価
① 服装・身だしなみをきちんとした。	○
② 挨拶・返事・報告をきちんとした。	○
③ 集中して仕事をした。	○
④ 仲間と協力（仲良く）して仕事をした。	○
⑤ 時間やきまりを守った。	○
⑥ 準備や後片付けをした。	○
⑦ 安全に気をつけた。（けがをしなかった）	△

反省	ねむくなりましたが しずかにがんばった

エ　第２段階における成果と課題

成果　・「書く」ことに時間がかかっていた生徒も自分の考えに合う「タブ」を移動させることで記入が容易になり、記入時間も短縮できた。

課題　・言葉の表出が難しい生徒は、職員が評価した内容になってしまう傾向がある

オ　第３段階　「作業内容」や「目標」を絵カードで示し、生徒が選択する様式を新たに作成

作業内容

目標

反省

カ　第３段階における成果と課題

成果　・生徒が絵カードをタッチすることで自分の思いや考えを自分で「選択」して表出することがでる

課題　・選択肢は教師が準備したカードの中からの選択となるため、他の「気持ち」があった場合の選択ができない

4　研究実践

（3）非常食体験～災害にそなえよう～

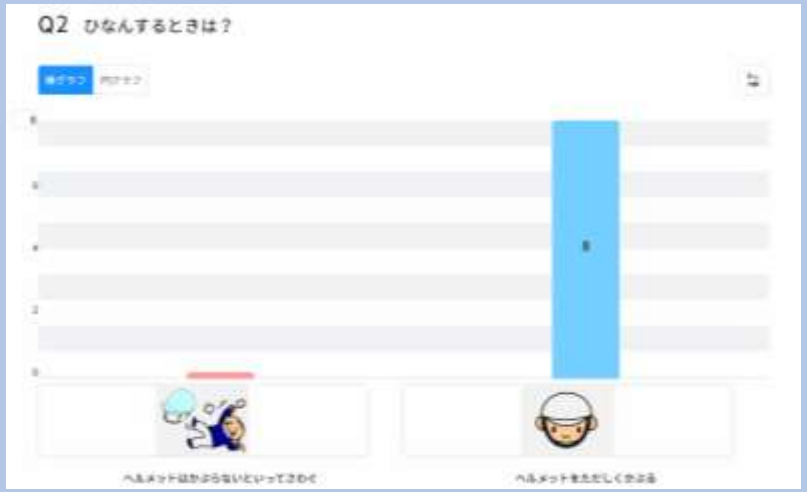
ア　内容

防災グッズの制作と非常食体験をとおして、非常時や災害時に備え防災の意識をもつ。

イ　学習の実際

・避難所の環境体験（ブルーシートの敷設）
・新聞スリッパづくり、牛乳パックのスプーンづくり
・非常食の準備と試食
・震災の体験や防災についてのお話を聞く
・ロイロノートのアンケート機能により学習内容の振り返り

非常食体験アンケートの実際



Q5 ひじょうしょくをたべて　かんそうは

回答必須

Q5 ひじょうしょくをたべて　かんそうは

A

おいしいけど、ふつうのごはんがよかった。

B

非常食を食べておいしかったです

C

冷たくても美味しかった。

Q6 しんさいのはなしをきいて　どうおもいましたか？

回答必須

Q6 しんさいのはなしをきいて　どうおもいましたか？

A

しっかりはなしをききました。かなしいきもち。

B

とても怖かったです。すぐに避難できるようにしておきたいです。

C

家が壊れていて、ちょっと怖いと思っています。

D

震災がいつ来るかわからないので備えておきたいと思います

ウ　成果と課題

成果　・生徒は学習をとおしてそれぞれが感じたことを簡単に表現することができ、周囲の生徒も知ることができ、お互いにどのようなことを感じているのかを知ることができた。

・生徒が学習内容をどのくらい理解しているか職員が把握することが容易だった。

課題　・動画を再生するときにネットが混みあっていて、再生に若干の滞りがあった。

6　実践をとおしての成果と課題

(１)成果・授業の始まりや終わりの流れを理解すると、自分からタブレットを準備し、記入して全体確認の時間を待つというパターンで動くことができた。

・様々な入力方法があるため、自分が感じたことを自分の言葉（代替手段含む）で表現することができた。

・調べたことをまとめたり、発表することを容易に行うことができるようになった

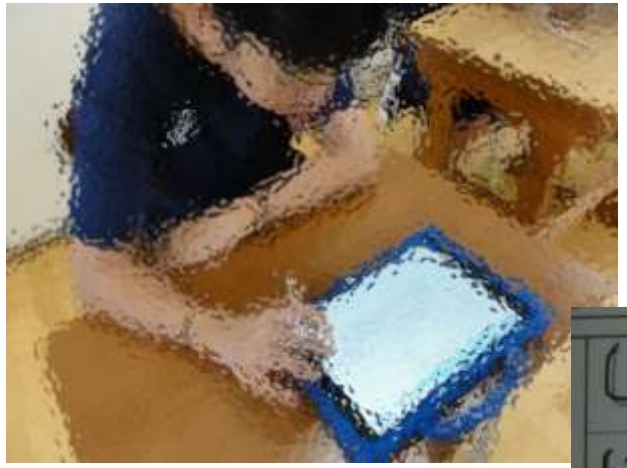
・他の人が考えていることを共有することにより、自分の取り組みについても振り返ることができた。

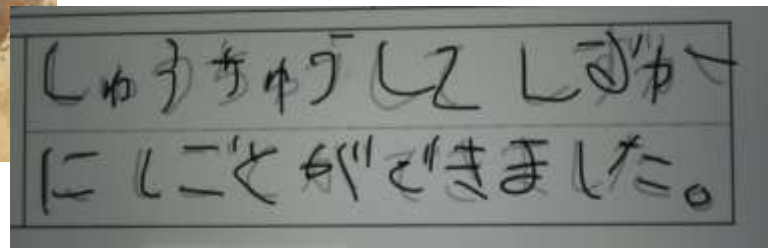
文字入力（言葉による表出）の様子

＜音声＞

＜五十音＞

＜ローマ字＞





＜なぞり＞

＜絵カード＞

作業日誌の発表の様子

＜スクリーンで確認＞

＜タブレットで確認＞

（２）課題

・生徒が主体的に記入するためには実態に合わせた様式を何パターンか準備する必要がある。
（準備に若干の時間を要する。）

・職員の利用経験が少なく、操作に手間取ってしまうことがある。

・ロイロノートの利用場面ではネット環境が不可欠で、ネットの利用状況により、画面操作や動画の再生が不安定になる場合もある。

7　実践のまとめ

　今年度が始まってすぐにロイロノートを使いはじめ、初めて使う職員も多く最初は戸惑いも大きかったが、使用する中で徐々に慣れ、学習の中で活用され、学習場面での活用アイディアが生まれるようになってきた。

　ロイロノートの長所と短所とを理解し、生徒が主体的に学習に向かうことができるよう、合わせた指導の場面だけでなく、様々な学習場面で活用を進めていきたい。

北上みなみ分教室小学部　実践報告

みなキラ　マスコットキャラクター
『みなピョン』

1　学習会について

- 学習会資料を活用して学習会を実施。

- 「学校教育指導指針」の内容を見ながら、基本事項について確認。

- 目指す姿を共有する際に、「キャリア教育全体計画」や「R7学校経営概要」を活用。

２　目指す児童生徒の姿について

- 『自分がやるべきことを自分でやろうとする姿』

- 『相手を意識して、何のために作るのかが分かり活動する姿』

３　研究の持ち方、進め方

- 分教室全体で研究を行った。
  （１）授業の深化・改善について検討
  （２）単元シートを活用し、授業作り
  （３）研究授業の実施
  （４）授業研究会の実践
  （５）学部研究のまとめ

4　研究授業、授業研究会の内容

単元名	生活単元学習「ベンチを塗装しよう」 （地域貢献活動）
小単元	「お礼の手紙とポスターを書こう」 ・お世話になった阿部塗装工業さんへお礼の手紙を書く。 ・ベンチ塗装（地域貢献活動）の活動周知ポスターやパネルを作る。
扱った各教科等	生活科、国語科、図工科

- ２年次の研究は、1年次の研究で取り組んだ授業のさらなる**深化・改善**を図ることを目的として取り組んだ。１年次で研究課題として挙げられた「地域の方や運動公園の利用者にもっとベンチ塗装の活動について知ってほしいので、様々な所で情報発信できたら良い」という反省を受けて、今まで写真を見たり、思い出カードを作ったりするだけだった事後学習を深化・改善し、阿部塗装工業さんへお礼の手紙を書いたり、ベンチ塗装の活動の周知ポスター等を作成、掲示したりすることにした。

『切る・文字塗りグループ』、『なぞり書き・塗り絵グループ』に分かれて活動。

完成したポスター。南小学校内と南中学校前のバス停の待合室に掲示。

完成したパネル。南小学校の表現発表会の作品展示コーナー、特別支援学校作品展に展示。

5　授業研究会のまとめ

★成果と課題

・身近な場所での地域貢献活動だったので良かった。

・ベンチ塗装の感想発表では、子供達から「みんな座ってほしい。使ってほしい。」「塗ったことをみんなに知ってほしい」等の意見が出た。その思いをポスター・パネル作りにつなげることができて良かった。

・ベンチ塗装は時間が経っても形に残る活動だったので良かった。実際、誰かに座ってもらい、感想を聞いたり、活用したりしている様子が子供達にも見えるとさらに良かった。

・活動したことをアピールする場の拡大を図る。

★今後の学習に生かしたい内容・改善したい内容

・児童の学習位置、使用する机の高さ等の環境設定

・地域貢献活動は、児童が知っているまたは使用したことがある身近な場所を活用した活動を行う。

・グループ毎の作業を行う際に、グループリーダーを設定する。➡子供達の意欲付けや自主的な行動につながる。

6　研究のまとめ

（1）成果①

- 事後学習が充実し、授業の深化・充実を図ることができた。
  事後学習の深化・充実を図ることで、子供達が昨年以上に「みんなの役に立った」「喜んでもらえて嬉しい」「地域の人、お家の人にベンチを利用してほしい」と思うことができた。

- 地域貢献活動の紹介パネルやポスターを作り、作品展等で展示や掲示して、様々な所で情報発信を行うことができた。

（1）成果②

- 教師の考えを押し付けるのではなく、「またやりたい」「座ってほしい」等、子供達から出た声や意見を聞きとり、それを授業に反映してポスター・パネル作りの授業を行うことができて良かった。➡今後も、子供達の声や思いを授業に生かす。

- 身に付けたい資質・能力を他の学習や生活場面で生かすことを意識して、授業作り、授業改善に努めることができた。

（２）課題

- 児童一人ひとりの自立と社会参加を目指した授業を行う上で、地域貢献活動は良い単元であったが、児童の実態や地域の実情に合わせて、身近な場所を活用した活動内容を毎年検討していく必要がある。

- 児童一人ひとりが自分でやるべきことを理解して、主体的に学習できるように、今後も活動内容や環境設定等の検討に努めたい。

北上みなみ分教室中学部　実践報告

北上みなみ分教室中学部の研究概要

1　学習会

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- 指導と評価の一体化
- 単元や題材など内容や時間のまとまりへ

学校教育指導指針

- **学部目標（中学部）**
- 集団や他者との関係の中で、自分で選択・活動をし、自己を発揮する。
- **キャリア教育学部方針（中学部）**
- 社会生活に対する関心を向け、みんなと共に働くことや自分らしさを表現する力が身に付くように支援する。

キャリア教育

全体計画

- 健康で丈夫な体づくりに努め、自分と仲間を大切にする生徒
- 充実感や達成感をもち、生き生きと活動する生徒
- 社会生活に必要な決まりやルールを守り、主体的に行動する生徒
- 南中学校との交流や地域との協働を通じて、自らの役割に力を発揮する生徒

北上みなみ分教室中

学部経営計画・目標

６月学習会資料

2　学部研究の具体的な取り組み

　昨年度の反省を踏まえ、引き続き**作業学習**において、授業の深化を図ることとした。４つのポイントを設定し、授業改善に取り組んだ。

- 作業日誌の見直し
- 環境調整
- 朝礼や終礼の進め方
- 出来高表

作業日誌

〈R6〉

月　日　曜日

【作業】

【目標】	【成果】	【評価】◎○△

【反省】できたところに　○を　つけましょう。

作業に集中する	服装・身だしなみ	あいさつ・返事	きまり・時間	報告
準備・かたづけ	話をよく聞く	言葉づかい（～です ～ます）	安全に気をつける	質問

【ふり返り】

【先生から】

〈R７・Aパターン〉

月　日　曜日

【作業内容】				
	袋詰め	新聞紙を開く、たたむ	計量	梱包
	ラベル切り	シュレッダー		

【目標】

【成果】

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

◎一人でできた　○声をかけてもらいできた　△きちんとできなかった

【評価】					
	準備・片付け	服装・身だしなみ	あいさつ・返事	話をよく聞く	報告する

【反省】	できたこと	次に気を付けること（次の時間の目標）

先生☑欄	先生から（実習中使用欄）	家庭から

〈変更点〉

・生徒の実態に応じて、A~Cの３種類を作成。

・作業内容は〇を付ける様式に変更。⇒書く分量の調整

・取り組んだ成果を書き込む欄を新設。

・始めに書く部分、作業中に書き込む部分、反省を書く部分を、時系列に並べて表記。

・「反省」の欄を、板書と同じ２つの項目・配置とした。

・[先生]欄は基本的に☑のみ。

作業日誌

〈R７・Bパターン〉

月　日　曜日

【作業内容】			
袋詰め	新聞紙開く、たたむ	計量	梱包
ラベル切り	シュレッダー		

【目標】

【成果】

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

【反省】

できたこと	次に気を付けること（次の時間の目標）

先生☑欄	先生から（実習中使用欄）	家庭から

〈R７・Cパターン〉表・裏

月　日　曜日

【作業内容】			
袋詰め	新聞紙開く、たたむ	計量	梱包
ラベル切り	シュレッダー		

【目標】

【成果】

できた　できなかった

・先生が記入

【反省】

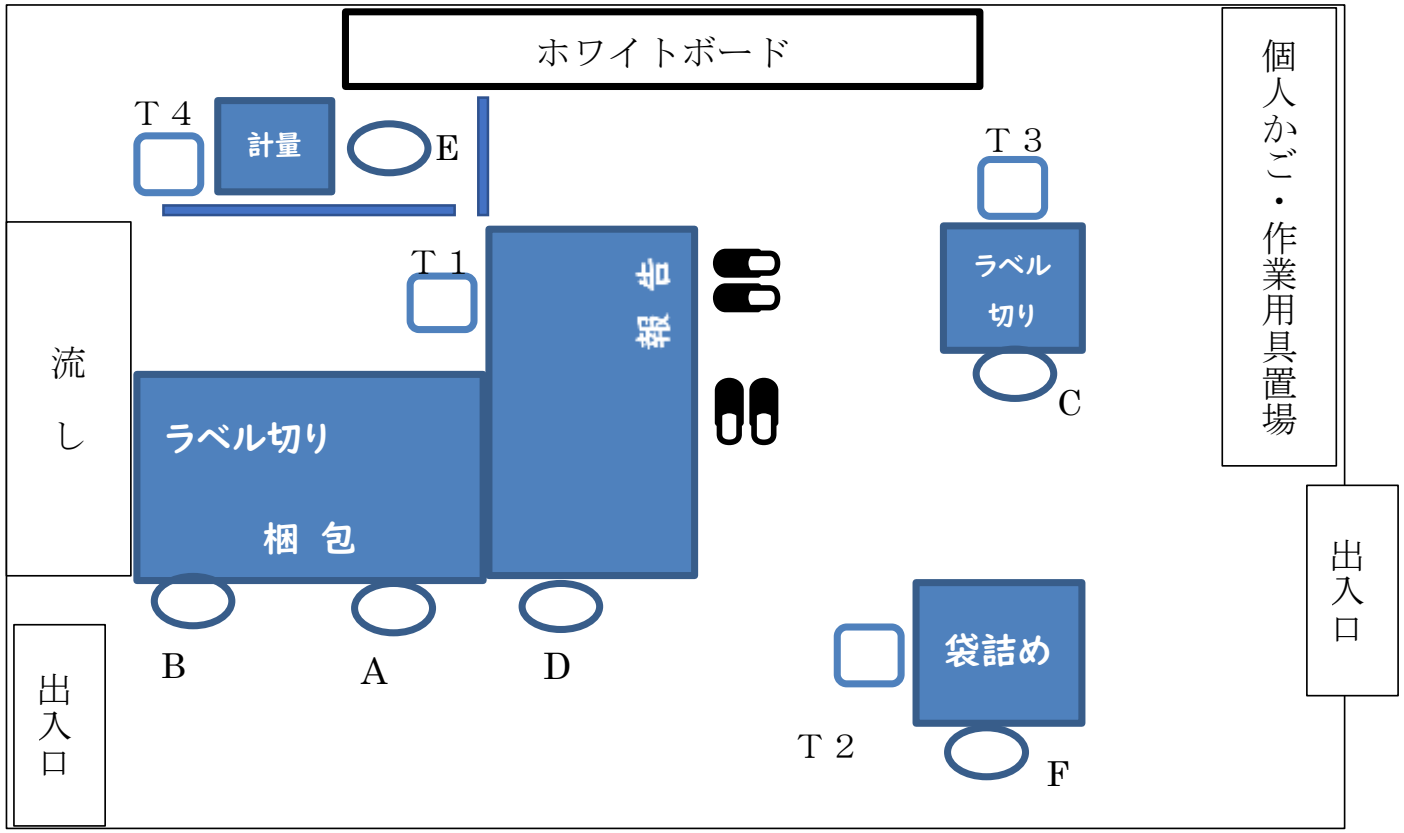
できたこと	次に気を付けること（次の時間の目標）

先生☑欄	先生から（実習中使用欄）	家庭から

できた数

5	10	15	20
4	9	14	19
3	8	13	18
2	7	12	17
1	6	11	16

環境調整



〈変更点〉

・特性に配慮した配置

⇒集中できるようにパーテーションを設置（E）

⇒仲間の作業の様子がわかり、協働を意識できる配置（A,B,D）

⇒不安なときは別室作業に移れるよう、出入り口の近くに机を配置（F）

・報告する場所にかごを置き、並ぶ場所を足型で示した。

※作業内容によって配置を変えて取り組んでいる。左図は研究授業における配置。

朝礼や終礼の進め方

〈変更点〉

・朝礼では、班長が目標の確認や作業分担を伝える。

・終礼では、班長が一人ひとりに成果を聞き、できた個数をホワイトボードに書く。

・班長の問いかけに応じるのが難しい生徒のために、班長は生徒の前まで移動して話し掛ける。

出来高表

〈全体の出来高〉

サンシャインラビッツコラボ販売会に向けて

1　販売日　12月6日（土）7日（日）

2　販売予定セット数

　１００セット（１０００パック）

3　取り組みの記録　（〆切 12月3日（水））

日付	在庫	作った数	在庫+作った数	残り（1000-在庫+作った数）
10/30	586			414
	586			

〈個人の出来高表〉

25												
24												
23												
22												
21												
20												
19												
18												
17												
16												
15												
14												
13												
12												
11												
10												
9												
8												
7												
6												
5												
4												
3												
2												
1												
	目標	成果	目標	成果	目標	成果	目標	成果	目標	成果	目標	成果
	月　日（　）		月　日（　）		月　日（　）		月　日（　）		月　日（　）		月　日（　）	

・昨年度の反省に挙がった出来高表を検討。

・個人の出来高表は、棒グラフで可視化した。

・作業学習が週２回あるため、前時の出来高との比較にするか、目標に対する成果の比較にするか検討した。

・日によって作業内容が変わることがあり、比較検討時間が足りず、出来高表の決定には至らなかった。

3　研究授業、授業研究会

（１）研究授業　　12月２日（火）

扱った各教科等…職業・家庭科、国語科(小:国語科)、数学科(算数科）、図画工作科

（２）授業研究会　　12月４日（木）

＜協議の観点＞

ア　本時の目標が達成できるような学習活動が十分展開できたか。

☆「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」であったかを視点としながら、手立て等がどうであったか

イ　授業者が聞きたいこと

①作業日誌を書くタイミングについて
②生徒同士の協働的で対話的な学びを深めるための手立て
③出来高表はどうあるべきか。（比較、掲示方法など）

本時の目標

①　自分の担当する作業の準備・後片付け、活動内容、作業工程、道具や材料の使い方がわかり、丁寧に作業に取り組むことができる。（知・技）

②　製品の仕上がりを確認したり、報告したりすることができる。（思・判・表）

③　販売会に向けてお客様に喜んでもらう製品を作るということを意識し、目標数を達成できるように意欲的に取り組む。（学・人）

＜授業研究会の内容＞

ア　本時の目標が達成できるような学習活動が十分展開できたか。

⇨作業日誌や道具の準備・片付けが一人でできており、環境調整が適切であった。

⇨製品の仕上がりを確認する生徒の様子が見られた。

➡指導案において、「本時の個別の目標」と「評価基準」が対応していない部分があったので、吟味が必要である。

イ　授業者が聞きたいこと

①作業日誌を書くタイミングについて

⇨出勤した生徒から順に朝礼前に記入しておく方が良い。ただし、作業内容が変更になる場合などは、教師と目標を確認してから記入する必要がある。

⇒進路見学で朝礼前後の様子を見学するのも良い。

＜授業研究会の内容＞

イ　授業者が聞きたいこと

②生徒同士の協働的で対話的な学びを深めるための手立て

⇨朝礼や終礼で生徒同士のやりとりが増えて、アクティブラーニングにつながっている。

➡生徒同士の協働を推進するため、生徒が切り終えたラベルを、梱包作業中の生徒に直接渡すようにしていた。しかし、受け取る側の生徒が必ずしも手を止めて応答せずとも、指定場所に置くだけで良いのではないか、という意見が出た。時間いっぱい自分の作業に取り組むことを大切にしたい。

⇒教師が自然な応答（「ありがとう」など）をすることで、生徒の自然な受け答えを引き出していけると良いのではないか。

③出来高表はどうあるべきか。（比較、掲示方法など）

⇒数学の目標と関連させた提示であると良い。棒グラフやタブレットを活用することも考えられる。

4　成果・課題・まとめ

（１）成果

作業日誌

- 生徒の実態に応じて３パターンを作成
- 板書と連動した配置
- 成果を書き込む欄の追加

↓

個別最適な学びの充実

環境調整

- 特性に応じた机の配置
- 用具置き場の表示
- 報告する場所の表示

↓

自分から作業を進めるなど、主体的に取り組む態度の育成へ

朝礼や終礼の進め方

- 班長からの伝達や発問

↓

生徒同士の協働による対話的な学びへ

（２）課題

出来高表	学習指導案	終礼での振り返り
・作業内容が変わることもあり、個人ごとの出来高表を試行錯誤する段階には至らなかった。	・「本時の個別の目標」と「評価基準」が対応していない部分があったので、吟味が必要である。	・数字で表される成果は生徒同士でやりとりができるが、態度面等の反省のやりとりは難しい。

（３）まとめ

２年間、研究主題である「児童生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指して～身に付けたい力を明らかにした各教科を合わせた指導の充実～」のもと、作業学習の授業づくりと授業改善に取り組んできた。掲げた４つのポイントそれぞれにおいてPDCAサイクルを働かせた授業改善を図ることができた。

全職員がかかわっている作業学習の授業改善に取り組むことで、他の教科でも机上の整え方などを統一して指導することができ、他の場面にもつながる授業実践に取り組むことができた。

これからも挙げられた成果や課題を次の授業や単元へ活かし、さらにPDCAサイクルを働かせながら、ブラッシュアップしていきたい。

寄宿舎　実践報告

「一人ひとりの伸ばしたい力を明らかにした生活支援の充実」

１　目的

（１）　特性や実態を基にした職員間の円滑な協議を図る。

（２）　継続できるための仕組み化。

（３）　主体的な姿を育むために必要な職員の姿勢を共有する。

２　研究仮説

　寄宿舎生の実態や活動の実態把握をもとに、伸ばしたい力を明らかにし、継続可能な組織的支援を行うことで、職員の資質向上と支援の充実につながるであろう。

３　研究実践

（１）『舎内の調査研究』

ア　目的：寄宿舎で行っている支援の仕組みの現状調査。課題や強みを明らかにする。

イ　内容：舎内アンケートを実施。個別の生活支援計画や棟検討会の際に必要なことや課題等の意識調査。

ウ　見えてきたこと：

（ア）実態把握やPDCAなど、経験したであろう取組については（行った、できた、概ねできた）といった回答がほとんどを占めた。

（イ）実態把握で得られた情報を6区分に整理できたかという質問には（できなかった）が23％という結果になり、「6区分」「3観点」といった新しい取組については、まだ自信がないと感じる職員が多いことが読み取れた。

（ウ）棟討議・棟検討会の回答の中では、棟討議・棟検討会が有効であることは認めながらも、時間の確保が難しいことや、自身の見立てに自信がないなど、実施する上での課題も出された。

３　研究実践

（２）『学習会』

ア　目的：職員の知識の向上

イ　内容：事前の自主学習を基にした舎内学習会

ウ　成果

（ア）学習会を自主学習形式で行ったことは、自ら学ぶ場としても、お互いの学びの成果の披露の場としても効果的であった。

（イ）学習会の資料を分担し作成することで、理解が深められたし多角的にとらえることができた。

エ　課題

（ア）業務時間外に資料作成したケースが多かった。

（イ）ＰＤＣＡを使いこなすことや効率化が難しい。

３　研究実践

（３）『グループ研』

ア　目的：職員間の円滑な協議

イ　内容：ルール決めと棟討議の実践

ウ　提案したルール：

① 検討会を行う日時の予告
② 終了時刻を予告
③ 司会者と記録者を決める
④ 発言がない場合は、司会者が指名する
⑤ 決定事項と持ち越しの内容の確認（誰がいつまでに等）
⑥ 記録を欠席者に回覧し、周知を図る

3　研究実践

① 検討会を行う日時の予告

② <u>資料の事前配布</u>

③ 終了時刻を予告

④ 司会者と記録者を決める

⑤ 発言がない場合は、司会者が指名する

⑥ 決定事項と持ち越しの内容の確認（誰がいつまでに等）

⑦ 記録を欠席者に回覧し、周知を図る

※<u>PC利用は統一しない</u>

※<u>PDCA検討の際は生徒の姿の見立てや支援内容に比重を置く</u>

●下線部分については研修会後に挿入

３　研究実践

（４）『研修会』：棟検討会の見学と意見交換

ア　目的：主体的な姿を育むための職員の姿勢の共有

イ　内容：各棟の事例検討会を他の生活棟が見学する交流会

ウ　成果

（ア）棟検討会の際、PC利用、紙媒体のいずれにしても事前配布（告知）による資料の読み込みが検討会の時間短縮につながる。

（イ）PDCAの様式を重視するのではなく、PDCAはツールであり個別の生活支援計画を深めるものであると再確認できた。

（ウ）棟検討会の際は、PDCA自体の吟味ではなく、生徒の姿や支援に比重を置くことで討議が深まると考えられる。

（エ）チームで支援しているので、個別の生活支援計画（PDCA）も、チームで作り上げていくという観点で、棟検討会の中で生徒の姿や変容、より良い支援について話し合ったことを記録していくことが望ましい。

エ　課題

（ア）各棟の検討会を見学しあったことで、PDCAの捉え方・進め方に違いがあることが分かった。同じような進め方ができるような確認が必要。

（イ）PDCAの様式をツールとして使いこなすためには、本校寄宿舎のPDCAの取組への理解がある程度必要。

４　研究のまとめ

（１）特性や実態を基にした職員間の円滑な協議を図る。

今年度は、寄宿舎で取り組んでいる「個別の生活支援計画」に関わるＰＤＣＡ、6区分、3観点、実態把握についての学習会を6月に行い、生徒の特性や『伸ばしたい力』を明確にするための方法を職員間で共有した。また、9月には研修会として他棟の討議の様子を参観することで、効果的な棟討議のルールを再確認し、職員間の円滑な協議につながった。

（２）継続できるための仕組化。

棟検討会でＰＤＣＡサイクル実施し、計画・実践・振り返り・改善を繰り返す仕組みを構築した。また、学習会を通じてＰＤＣＡの理解が深められ、支援の継続性が向上した。

４　研究のまとめ

（３）主体的な姿を育むために必要な職員の姿勢を共有する。

学習会を通じて、多角的に生徒を見る観点について学び、主体性を育む支援の在り方を再確認した。その観点をもとに、自分たちの課題や強みについて再認識し、職員間で共通理解を深めることができた。

２　全校研究のまとめ、次年度へ向けて

（１）主な成果

（２）主な課題

（３）次年度へ向けて

ア　今年度中に学部・分教室でできること

イ　R8年度校内研究方向性

（1）主な成果

・具体的な改善案を協議　→　次の実践に反映　→　<u>学びの充実</u>

個別最適な学びの充実　主体的な姿　対話的な学び

（学習内容、学習場面の設定、年間指導計画、教材教具、ICT機器活用、作業日誌、環境の調整、教師の関わりの工夫など）

・毎年同じ単元を取り上げる　→　積み重ね、改善

・新たな単元を取り上げる　→　今までの取組を生かす、蓄積の広がり

・教師間での共通理解　→　全体で手立てを共有、活用
→　児童生徒の学びの充実

授業改善、授業の深化と充実

参考：各学部、分教室の**主な成果**

- **具体的な授業改善案を協議**し、**次の実践に反映することで児童の学びの充実**が図られた。（本小）
- グループ内で手立てを活用、授業づくりの視点を**教師間で共有**できた。（本小）
- 作業学習の基本的なことを確認、個別に対応した支援が全生徒共通の手立てとすること、**指導の共通理解**を職員間でできた。（本中）
- 作業日誌の改善が生徒の自己評価につながった。（本中）
- **学習指導要領を再確認しながら段階的に育てたい力を整理し年間指導計画構想シートの作成**したことで、年間指導計画活用シートを活用しながら**個別の目標設定や手立て、評価**を行うことができた。**共通理解のツール**としても授業実践の中で活用できた。(本高)
- **地域とのつながりをもった学習**をとおして**地域の方から評価**されることで、誰かの役に立つことや働くことの意義や価値を実感でき、**生徒の自己有用感**につなげることができた。(本高)
- 毎年通年で取り組む学習活動について**学部全体で深く考える機会**となり、**児童の実態や目標なども共有**することができた。また自ら進んで活動しようとする児童の姿が見られ、**目指す姿に迫る**ことができた。(遠分小)
- **併設校児童との交流を深める**ことができた。(遠分小)
- **生徒の実態に合わせた形に変化**させながらロイロノートを活用することで、授業の導入場面において**主体的に行動することがパターン化**したり、**調べる・まとめる・気持ちの表現・発表が容易**にできるようになった。(遠分中)
- **昨年度と同じ単元に取り組む**ことで、**授業の深化・充実**が図られた。(北み分小)
- **身に付けたい資質・能力を意識して、授業作り・授業改善**できた。(北み分小)
- 作業日誌の見直しにより、**生徒の個別最適な学びの充実**を図ることができた。(北み分小)
- 学習の場の環境調整により、**主体的に取り組む態度の育成**につながった。(北み分小)
- 朝礼や終礼の進め方の改善を図ることで、**協働による対話的な学び**へつながった。(北み分小)

（2）主な課題

・**単元の扱う各教科等及びその内容**、**育成を目指す資質・能力**についての**協議**
→単元づくり、授業研究会の場で

・「**本時の個別の目標**」**と**「**個別の評価基準**」**が対応していない**部分があり、吟味が必要

・**学習評価の蓄積**、**児童の学習改善**、**教師の指導改善**につながるような**記録方法の工夫**

・さらなる**授業実践の積み重ねと授業改善**

・**他の単元を取り上げ授業改善**、**蓄積の広がり**を図る

・年間指導計画、作業日誌、ICT機器活用、教材教具などの**活用**とその**改善**

参考：各学部、分教室の**主な課題**

- **学習状況の記録方法の工夫**(本小)
  →学習評価の蓄積、児童の学習改善、教師の指導改善
- 学部内での**教材教具等、有効な手立ての共有**(本小)
- **扱う各教科等、育成を目指す資質・能力についての協議**(本小)
  →学びの連続性・系統性(教科横断的な視点)
- 基本をもとにした実態に合わせた作業日誌の応用(本中)
- 作業課ごとの研究の目的の深掘りする時間の確保(本高)
- **生徒一人一人が自己の将来のイメージをもつことができるような学習活動**の展開(本高)
- 年間指導計画構想シートの定期的な見直し、教科の観点を意識的に盛り込む(本高)
- **他の生単の中の単元**を扱ってみたい(遠小分)
- ロイロノートの短所と長所を踏まえた上で様々な学習活動において活を進める、教師がICT機器の扱いに慣れる(遠分中)
- 事前準備に時間を要する(遠分中)
- 地域連携の活動は、児童にとって身近な場所を活用するのが良い(北み分小)
- 「本時の個別の目標」と「評価基準」が対応していない部分がある(北み分中)

（３）次年度へ向けて

ア　今年度中に学部・分教室でできること

成果や課題、改善案で得られたことを生かす

・日ごろの授業の中で

・次年度の年間指導計画作成に反映

（３）次年度へ向けて

イ　Ｒ８年度校内研究方向性 - １

R8年度からの校内研究活動（本校学部・分教室）

「授業改善に向けた取組」

学校教育目標達成に向け、
日々の授業を共有、改善に向け具体的に協議、
実践の蓄積

＊全校研究→校内研究活動(授業実践と協議、授業改善とその蓄積を中心とするもの)

＊寄宿舎は、学校教育目標達成を目指すことを共有し、独自に進める。

（３）次年度へ向けて

イ　R8年度校内研究方向性 - 2

学部、分教室ごとのニーズに応じた内容を設定

↓

授業改善に向けた取組を行う

- 教科、領域
- 各教科等を合せた指導
- 教材教具

アンケートで多かった内容

（３）次年度へ向けて

イ　Ｒ８年度校内研究方向性 - ３

授業改善に向けた取組の共通事項ー１

授業づくりと授業実践

- **扱う各教科等について学習指導要領の内容を明確に捉える**　これまでの取組を生かす
- **扱う各教科等についての学習指導要領の内容を踏まえた目標設定**　これまでの取組を生かす
- 各教科の見方・考え方を踏まえながら
- 評価と学習内容の一体化しているか
- **主体的、対話的、深い学びが展開されているか**　これまでの取組を生かす

改善に向けて

- **主体的、対話的、深い学びであったかを視点**としながら、**具体的な改善案を導き出し、次へ生かす**　これまでの取組を生かす

（３）次年度へ向けて

イ　R8年度校内研究方向性 - 4

授業改善に向けた取組の共通事項ー２

・学部、分教室ごとに**授業と研究会の実施**
→互見授業の機会の確保
→授業改善に向け、共有・協議する場の確保
→学習指導案の様式は、取組内容や必要性に合わせる(例：略案、ポイントを絞ったものなど。ただし、扱う各教科等とその内容と資質能力を踏まえた目標は明記)
→小グループを設定している際は、取組の共有

・**全校研究授業及び授業研究会(公開)の実施**
→全校での共有の場の確保（授業提供学部…小学部）
→ステップアップ研修講座開講、公開授業研究会開催の必要性

イ　R8年度校内研究方向性 - 5　校内研究活動全体イメージ

＜学校教育目標＞
一人ひとりの可能性を伸ばすとともに、自立と社会参加に向けて主体的に生きる人間を育成する

学部教育目標
キャリア発達能力の目標

年間指導計画
個別の指導計画

本校学部・分教室研究活動

授業改善に向けた取組

＊水色の文字…これまでの取組を継続した内容

主な内容

- 学部、分教室のニーズに応じた学習内容等の設定
- 単元、授業づくり…扱う各教科等について学習指導要領の内容を明確に捉える
- 研究授業　…互いに授業を見合う
- 授業研究会　…主体的、対話的、深い学びであったかを視点としながら、具体的な改善案を導き出し成果や課題を次の授業や単元に生かす
- 情報共有
- カリキュラムマネジメントへ

高教研講演会(7月30日)
授業づくりに関する内容
植草学園大学　佐藤愼二氏

全校研究授業及び授業研究会
（12月）
授業提供：本校小学部

寄宿舎研究

個別の
生活支援計画に
基づく内容